

## 第Ⅱ章 独居在宅高齢者のケア調査

## 目 次

第Ⅱ章 独居在宅高齢者のケア調査	11
1. 調査の目的	11
1.1 調査の全体像	11
1.2 調査対象地域	11
2. 調査の方法	12
2.1 「独居在宅要介護高齢者 生活状況調査」	12
2.2 「ケア時間調査およびケア内容調査」	12
2.3 「グループインタビュー調査」	12
3. 調査の結果	13
3.1 「独居在宅要介護高齢者 生活状況調査」	13
(1) 鹿児島県薩摩川内市	13
(2) 埼玉県和光市	28
3.2 「ケア時間調査およびケア内容調査」	44
(1) 鹿児島県薩摩川内市	44
(2) 埼玉県和光市	49
3.3 「グループインタビュー調査」	52
(1) 鹿児島県薩摩川内市	52
(2) 埼玉県和光市	54
4. まとめ	56
4.1 事例の概要	56
4.2 調査手法に関する課題	57
4.3 今後の検討課題	57
附録A. 独居在宅要介護高齢者 生活状況調査票	59
附録B. 独居在宅高齢者ケア時間およびケア内容調査票	72

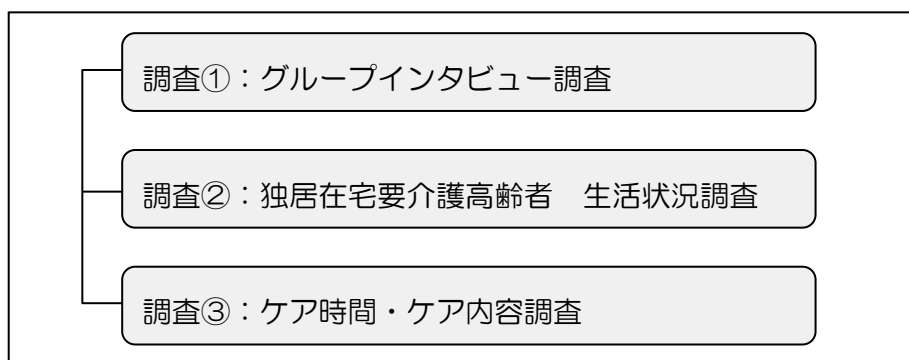
## 第Ⅱ章 独居在宅高齢者のケア調査

### 1. 調査の目的

本調査は、要介護の独居在宅高齢者が、自宅で生活を維持していくために必要な今後の支援策を明らかにするための基礎資料を収集することを目的とした。具体的には、1)在宅でひとり暮らしを継続する上で、影響を及ぼすと考えられる要因(例:要介護度、子どもの有無、居住環境等)、2)日常生活の中でどのようなことに困っているのか、その支援策の案、3)要介護状態で、独居で在宅生活を継続している高齢者の事例を収集し、心身の状態、生活状況および現在受けているケア等の内容等の実態把握を調査した。加えて、居宅で生活を継続している要介護高齢者が受けているケア等の時間を測定するための手法についての検討課題を抽出することも目指した。

#### 1.1 調査の全体像

本調査は、「グループインタビュー調査」、「独居在宅要介護高齢者 生活状況調査」、「ケア時間・ケア内容調査」の3種類の調査で構成された。



#### 1.2 調査対象地域

本調査は、鹿児島県薩摩川内市、埼玉県和光市の2地域を対象に実施した。

薩摩川内市は、総人口：100,674人、高齢化率27.1%(住民基本台帳登録者数,平成22年4月1日時点)である。地域包括支援センターが主導し、独居高齢者の生活状況および支援ニーズを把握するとともに、根強く機能している地域福祉資源(住民間のつながり、自治会組織等)を活かしながら支援の仕組みを構築している。薩摩半島の北西部に位置する地域である。

埼玉県和光市は、77,401人、高齢化率13.9%(住民基本台帳登録者数,平成22年4月1日時点、65歳以上高齢者人口は平成22年3月31日時点)である。市独自に、医療、介護に関わる給付情報等に関するデータベースを構築し、高齢者の介護予防に力点を置いたシステム活用型の支援の仕組みを構築している。都市部近郊の住宅街を中心とする地域である。

異なる地域特性を持つ2市を対象に事例調査を実施した。

## 2. 調査の方法

### 2.1 「独居在宅要介護高齢者 生活状況調査」

対 象：鹿児島県薩摩川内市、埼玉県和光市に所在する、居宅介護支援事業所が関与している、居宅で生活している、独居要介護高齢者それぞれ 20 名ずつ。

方 法：担当ケアマネジャーが調査票に記入。

調査期間：平成 23 年 2 月

調査項目：資料 1 参照

### 2.2 「ケア時間調査およびケア内容調査」

対 象：上記「独居在宅要介護高齢者 生活状況調査」の対象の中からそれぞれ 10 名ずつ実施。

方 法：対象者宅の玄関先に調査票を留め置き、来訪者が記載する。回収後、担当ケアマネジャーが高齢者本人等に確認し、外出状況、電話、その他記載もれを補記。

調査期間：平成 23 年 2 月

調査項目：資料 2 参照

### 2.3 「グループインタビュー調査」

対 象：薩摩川内市 埼玉県和光市（市役所高齢者福祉所管課 地域包括支援センター 居宅介護支援事業所 社会福祉協議会 民生委員 自治会連合会等）

方 法：質問別にグループインタビューを実施

調査期間：平成 23 年 2 月

調査項目：

- Q1 在宅独居要介護高齢者が、在宅生活を継続する上で影響することが想定される要因としてどのようなことが考えられるか。
- Q2-1 日常生活の中で困っていること（起こる問題点／起こっている問題点）としてはどのようなことが挙げられるか。
- Q2-2 貴市では、「困っていること」に対する支援方法としてどのような施策、事業、地域福祉活動、民間サービス等があるか。
- Q3-1 独居要介護高齢者が、手助けを求めたり、困ったことを相談することができる相手として、どのような方が挙げられるか。
- Q3-2 定期的な見守り、安否の確認の機能を担っているところとしてどのようなものが挙げられるか。
- Q4 困っていることに対する今後の支援方策に対する意見（誰なら、何ができるか）

### 3. 調査の結果

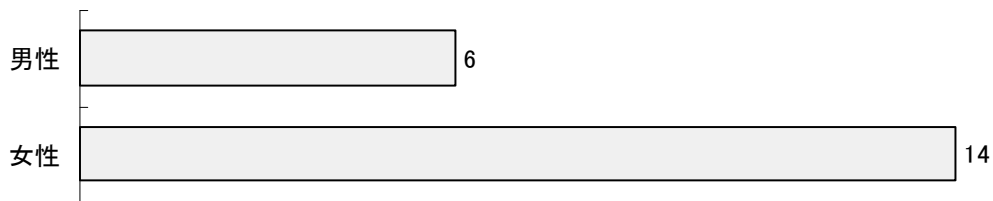
#### 3.1 「独居在宅要介護高齢者 生活状況調査」

##### (1) 鹿児島県薩摩川内市

###### □性別

性別は、男性6人、女性14人であった。

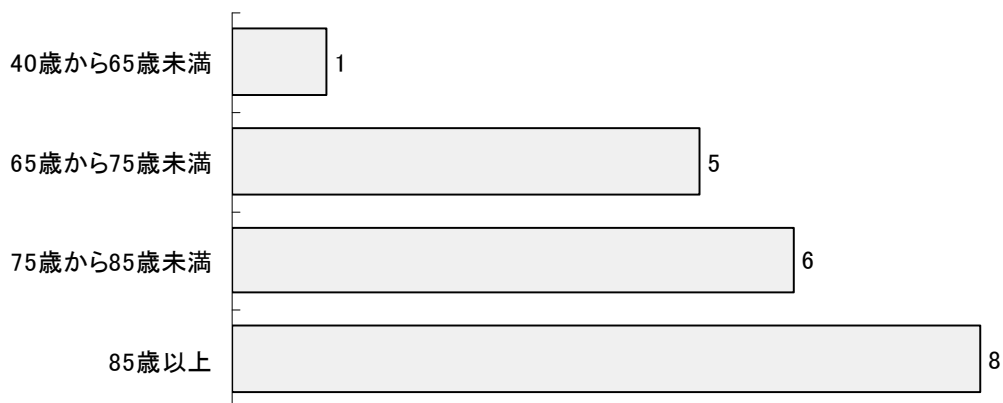
性別	男性	女性
人数	6人	14人



###### □ 年齢（平成23年2月時点）

平成23年2月時点の年齢は、40歳から65歳未満1人、65歳から75歳未満5人、75歳以上85歳未満6人、85歳以上8人であった。

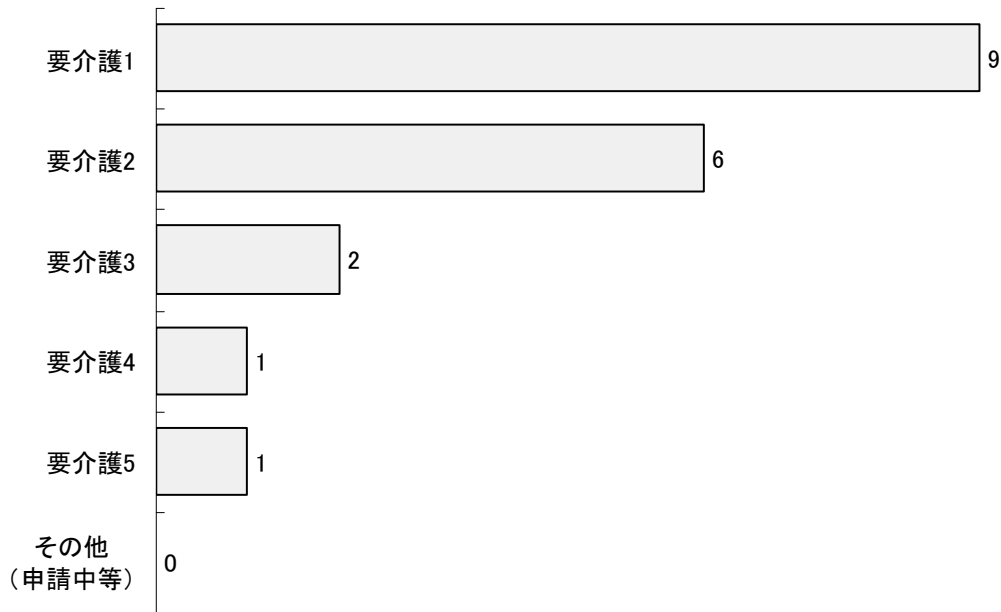
40歳から65歳未満	65歳から75歳未満	75歳から85歳未満	85歳以上	合計
1人	5人	6人	8人	20人



## □要介護度

要介護度についてみると、要介護1が9人、要介護2が6人、要介護3が2人、要介護4が1人、要介護5が1人であった。

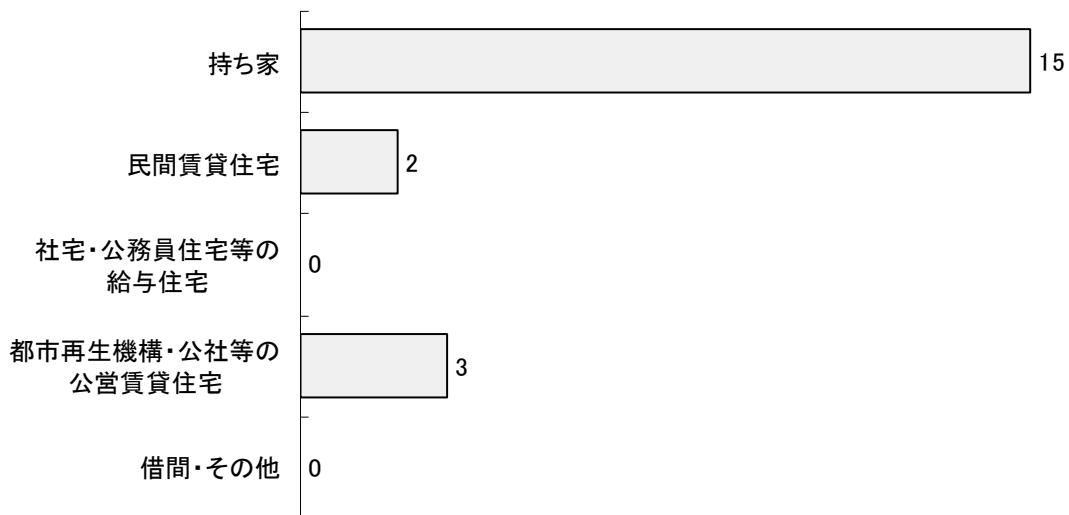
要介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他 (申請中等)
人数	9人	6人	2人	1人	1人	0人



□住居の所有形態

住居の所有形態についてみると、持ち家が 15 人、民間賃貸住宅 2 人、都市再生機構・公社等の公営賃貸住宅 3 人であった。

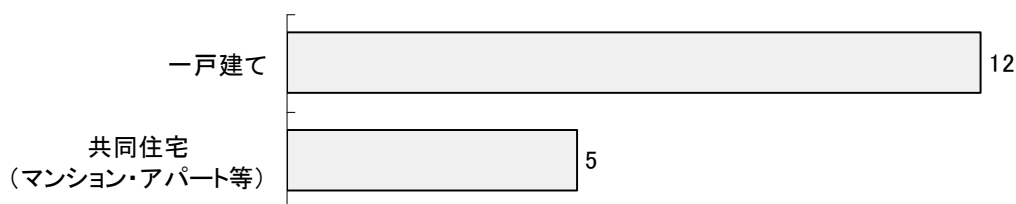
所有形態	持ち家	民間賃貸住宅	社宅・公務員住宅等の給与住宅	都市再生機構・公社等の公営賃貸住宅	借間・その他
人数	15 人	2 人	0 人	3 人	0 人



□ 住居の形態

住居の形態についてみると、一戸建て 12 人、共同住宅（マンション・アパート等）5 人であった。

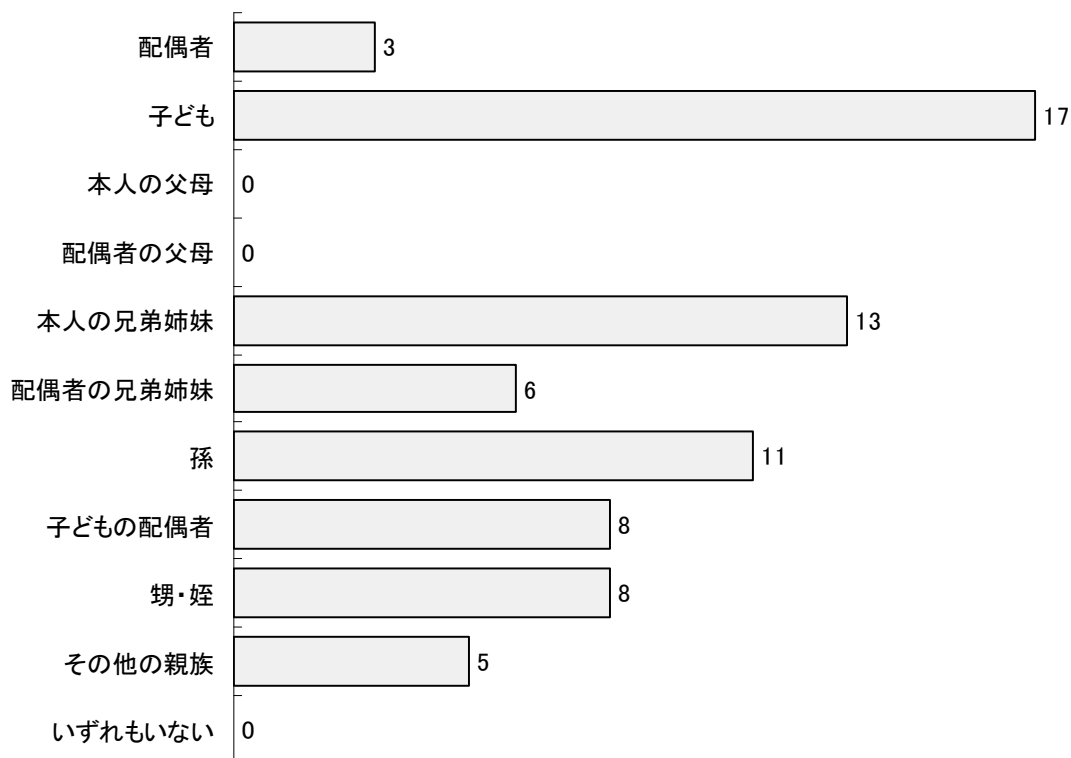
形態	一戸建て	共同住宅 (マンション・アパート等)
人数	12 人	5 人



□家族等の状況（複数回答）

家族等の状況（別居者含む）についてみると、配偶者がいる対象者が3人、子ども17人、本人の兄弟姉妹13人、配偶者の兄弟姉妹6人、孫11人、子どもの配偶者8人、甥・姪8人、その他の親族5人であり、家族等が全くいないという対象者はいなかった。

有無	配偶者	子ども	本人の 父母	配偶者の 父母	本人の 兄弟姉妹	配偶者の 兄弟姉妹	孫	子どもの 配偶者	甥・姪	その他の 親族	いずれも いない
人数	3人	17人	0人	0人	13人	6人	11人	8人	8人	5人	0人

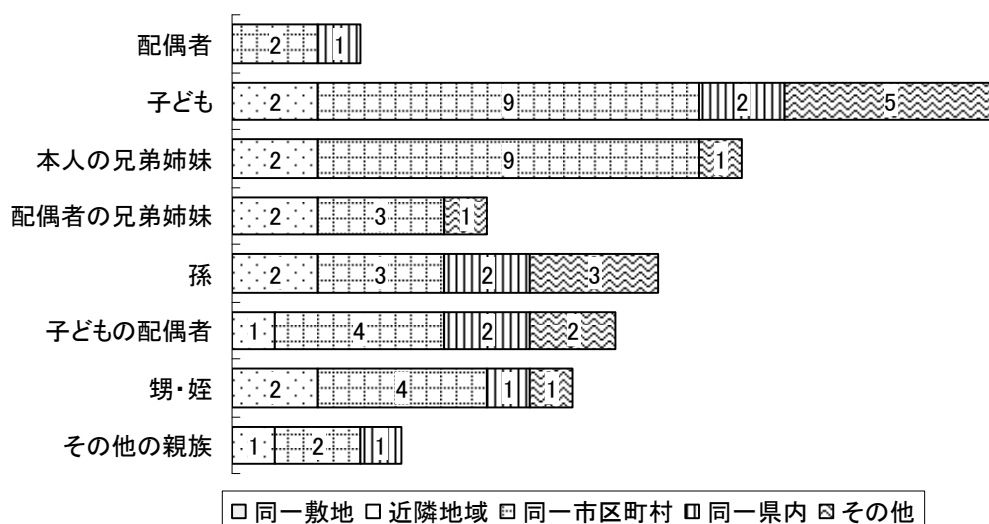




## □家族等の居住地

家族等の居住地について回答数の多かった子ども、本人の兄弟姉妹、孫についてみると、子どものうち、近隣地域は2人、同一市区町村9人、同一県内2人、その他5人であった。本人の兄弟姉妹は、近隣地域は2人、同一市区町村9人、その他1人であった。孫については、近隣地域2人、同一市区町村3人、同一県内2人、その他3人であった。

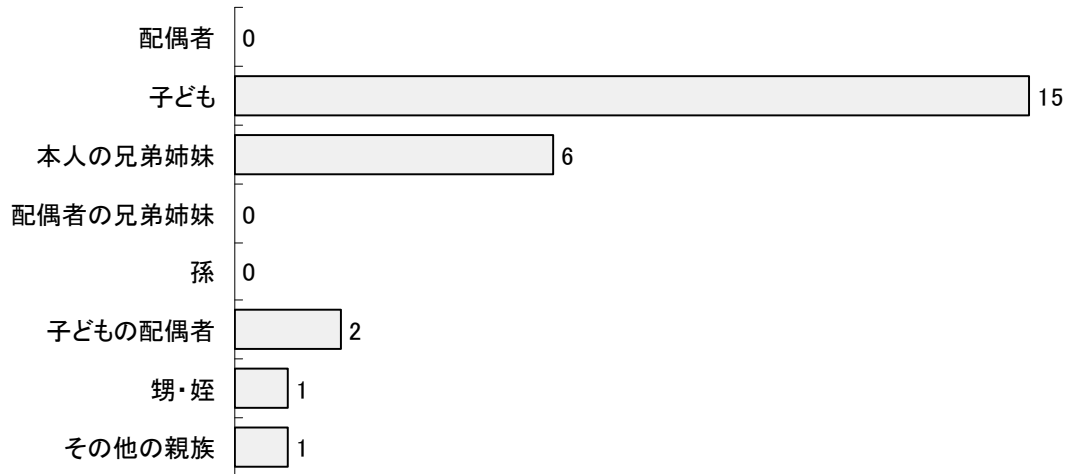
	同一敷地	近隣地域	同一市区町村	同一県内	その他
配偶者	0人	0人	2人	1人	0人
子ども	0人	2人	9人	2人	5人
本人の兄弟姉妹	0人	2人	9人	0人	1人
配偶者の兄弟姉妹	0人	2人	3人	0人	1人
孫	0人	2人	3人	2人	3人
子どもの配偶者	0人	1人	4人	2人	2人
甥・姪	0人	2人	4人	1人	1人
その他の親族	0人	1人	2人	1人	0人



□ 緊急時の連絡先（複数回答）

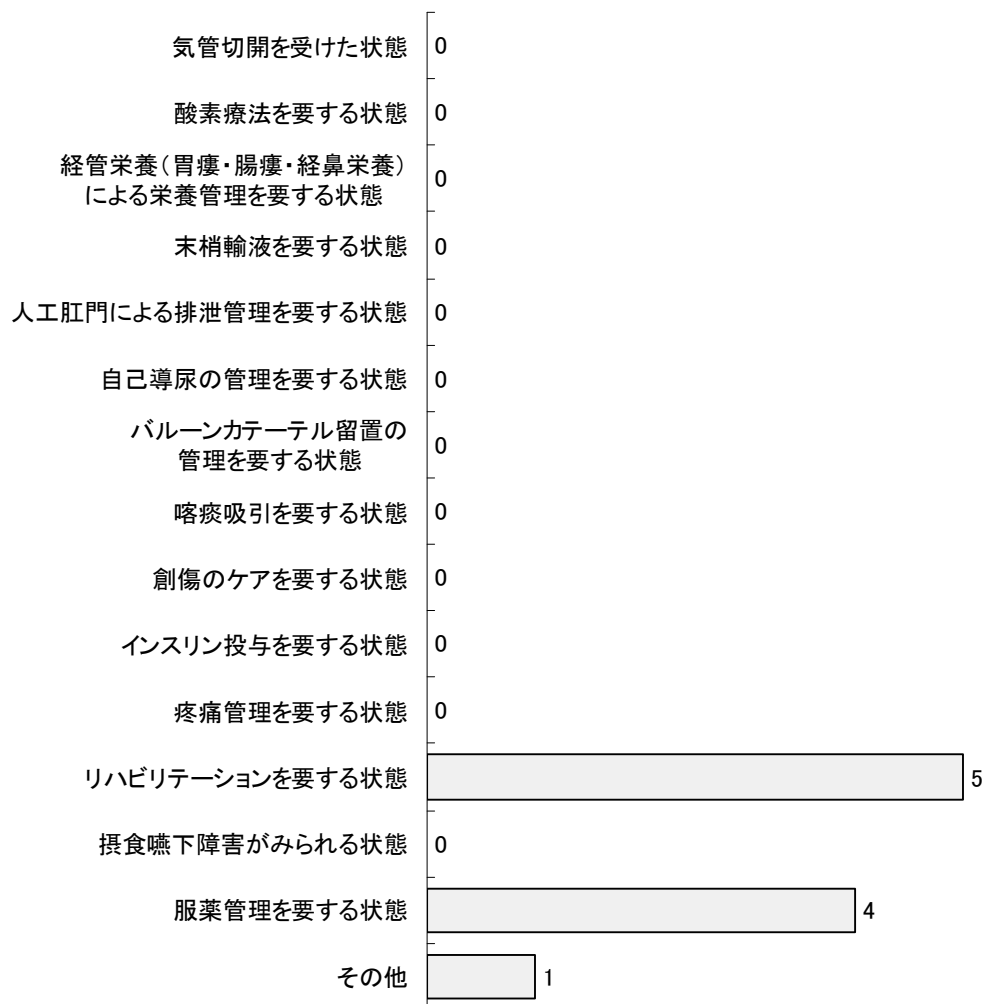
緊急時の連絡先は、子どもが15人であり、本人の兄弟姉妹6人と多くなっていた。

配偶者	子ども	本人の 兄弟姉妹	配偶者の 兄弟姉妹	孫	子どもの 配偶者	甥・姪	その他の 親族
0人	15人	6人	0人	0人	2人	1人	1人



## □医療・ケア（複数回答）

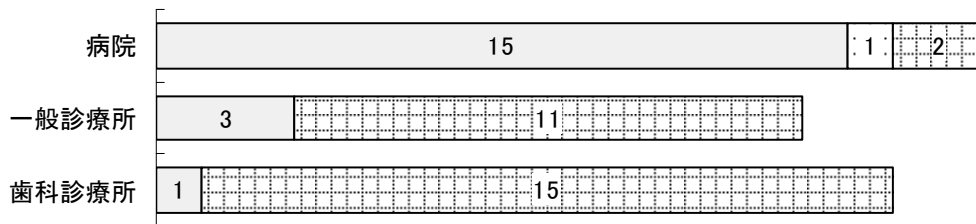
調査対象事例について、下記のうち現在受けている医療・ケアの内容についてみると、リハビリテーションを要する状態5人、服薬管理を要する状態4人であった。



□医療機関の受診状況

医療機関の受診状況についてみると、病院は、通院者が15人であった。一般診療所、歯科診療所は、通院、往診、訪問診療ともになしがそれぞれ11人、15人を占めた。

	通院している	往診・訪問診療を受けている	通院、往診・訪問診療ともなし
病院	15人	1人	2人
一般診療所	3人	0人	11人
歯科診療所	1人	0人	15人

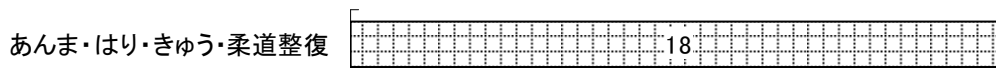


通院している  往診・訪問診療を受けている  通院、往診・訪問診療ともなし

<あんま・はり・きゅう・柔道整復>

あんま・はり・きゅう・柔道整復は、通っておらず、訪問看護（医療保険）は2人が受けていた。

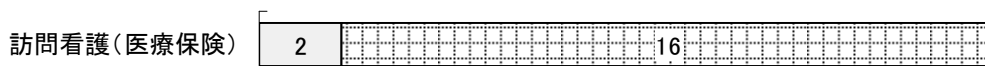
	通っている	通っていない
あんま・はり・きゅう・柔道整復	0人	18人



通っている  通っていない

<訪問看護（医療保険）>

	受けている	受けていない
訪問看護（医療保険）	2人	16人

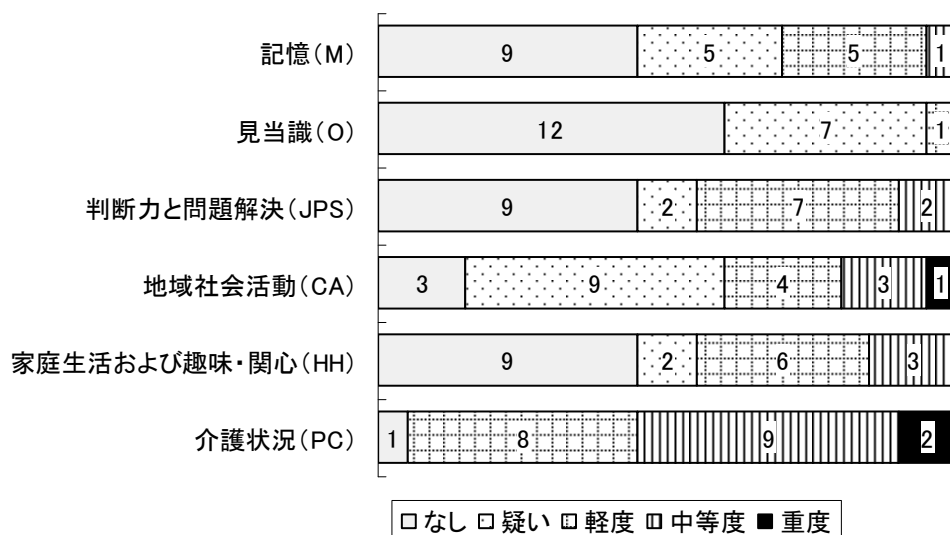


受けている  受けていない

□CDR (Clinical Dementia Rating)

CDR (Clinical Dementia Rating) を構成する状態像の軽度以上の該当者をみると、記憶 (M) は 6 人、見当識(O)1 人、判断力と問題解決 (JPS) 9 人、地域社会活動 (CA) 8 人、家庭生活および趣味・関心 (HH) 9 人、介護状態 (PC) 19 人であった。

	なし	疑い	軽度	中等度	重度
記憶 (M)	9 人	5 人	5 人	1 人	0 人
見当識 (O)	12 人	7 人	1 人	0 人	0 人
判断力と問題解決 (JPS)	9 人	2 人	7 人	2 人	0 人
地域社会活動 (CA)	3 人	9 人	4 人	3 人	1 人
家庭生活および趣味・関心 (HH)	9 人	2 人	6 人	3 人	0 人
介護状況 (PC)	1 人		8 人	9 人	2 人



□認知機能・BPSD 等

あてはまる、すこし傾向があるの合計について該当者数が多いものをみると、動作がのろくなってきている、会話中に「あれ」「それ」などの代名詞をよく使う、忍耐力がなく、集中力が低下している、新しい歌やゲームが覚えられない、自発性に乏しく、他人に頼りがちであるの順であった。

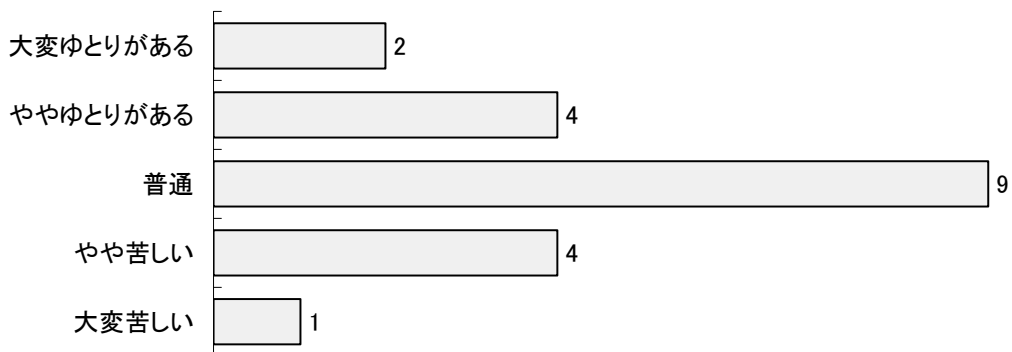
会話中に「あれ」「それ」などの代名詞をよく使う	6	8	5
夕方になると時間や場所が分からなくなり、変なことを言う	1	19	
意欲がなく、新しいことへの興味が無い	2	5	13
ごく簡単なことでも理解できない	1	3	16
発想が乏しい	2	4	14
身だしなみを気にしない	4	5	11
動作がのろくなってきている	7	8	5
食べ物でないものを食べようとする	1	19	
ちょっとしたことでイライラする	1	4	15
過去に意識を失うほど、頭を強く打ったことがある	2	1	17
重ね着をしたり、着衣の順を誤ったりする	2	4	14
不潔、清潔の区別がつかず、わざと汚したりする	1	3	16
やさしい計算でも間違える	1	6	13
今日が何日か、何曜日かが正確に言えない	2	6	11
食事したことを忘れ、何度も食事を要求する	2	1	17
時々、死にたいと言う	1	3	16
新しい歌やゲームが覚えられない	5	5	10
よく知った人の顔を見ても分からない、又は誤る	1	2	17
忍耐力がなく、集中力が低下している	2	8	10
自発性に乏しく、他人に頼りがちである	4	6	10
「声が聞こえる」「虫が見える」などの幻覚がある	1	1	18

あてはまる  すこし傾向がある  あてはまらない

□生活意識の状況（現在の暮らしの状況を総合的にみてどのように感じていますか）

生活意識の状況についてみると、普通が9人であり、苦しい（大変苦しいとやや苦しいの合計）が5人、ゆとりがある（ややゆとりがあると大変ゆとりがあるの合計）6人であった。

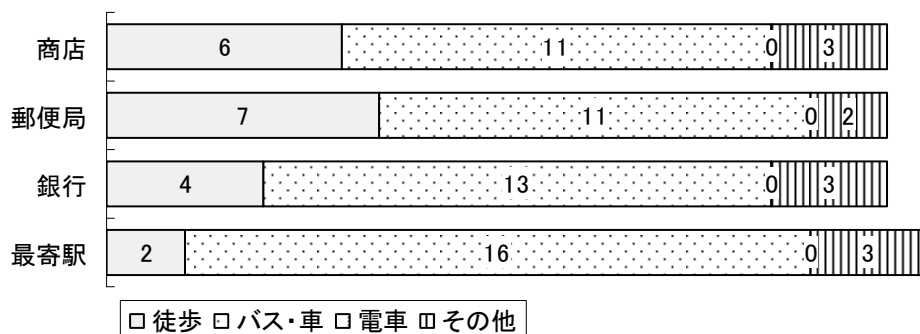
大変苦しい	やや苦しい	普通	ややゆとりがある	大変ゆとりがある
1人	4人	9人	4人	2人



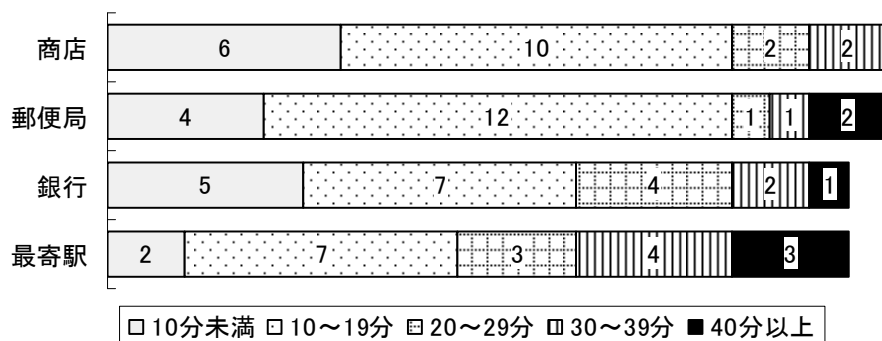
□もっとも近い商店・郵便局・銀行・駅までの手段、所要時間

下記までの移動手段についてみると、いずれもバス・車が大半を占めた。また、それぞれの所要時間は、10分から19分が最頻値であった。

	徒歩	バス・車	電車	その他
商店	6人	11人	0人	3人
郵便局	7人	11人	0人	2人
銀行	4人	13人	0人	3人
最寄駅	2人	16人	0人	3人



	10分未満	10～19分	20～29分	30～39分	40分以上
商店	6人	10人	2人	2人	0人
郵便局	4人	12人	1人	1人	2人
銀行	5人	7人	4人	2人	1人
最寄駅	2人	7人	3人	4人	3人

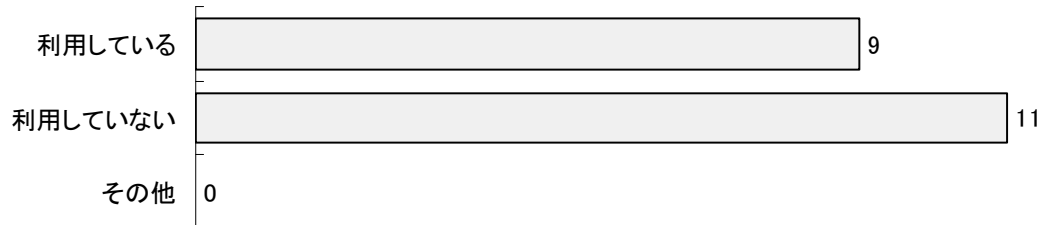




### □緊急通報システム

緊急通報システムを自宅に置いている対象事例は、9人であった。

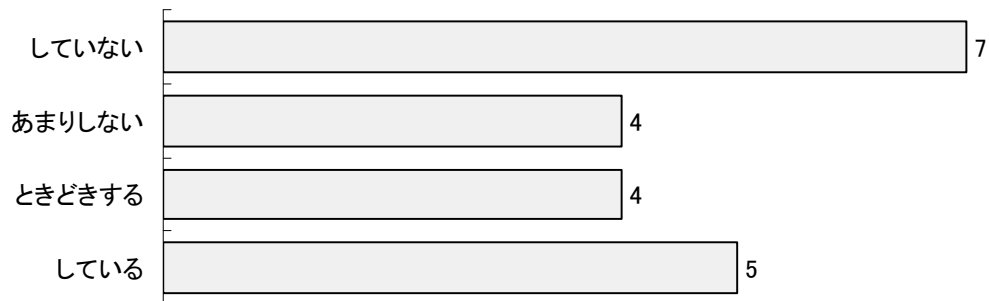
利用している	利用していない	その他
9人	11人	0人



### □友人との付き合い（会ったり、手紙や電話のやりとりをしている）

友人との付き合い（会ったり、手紙や電話のやりとり）についてみると、ときどきする、しているが9人であった。

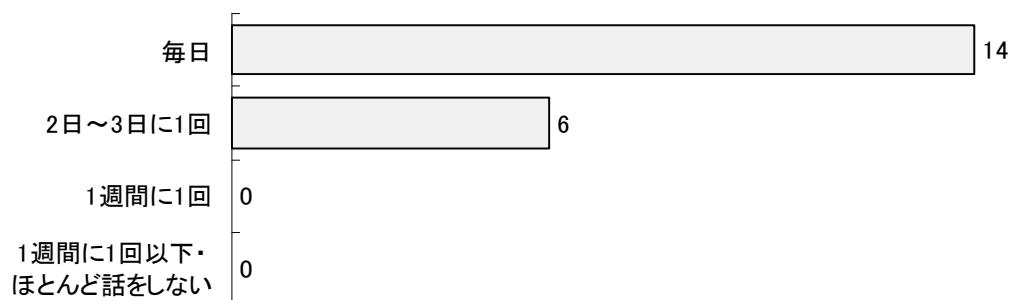
していない	あまりしない	ときどきする	している
7人	4人	4人	5人



□ふだんどの程度、人（家族等も含む）と話をするか（電話やEメールも含めて回答）

ふだんどの程度、人（家族等も含む）と話をするか（電話やEメールも含む）をみると、毎日が14人と最も多くなっていた。

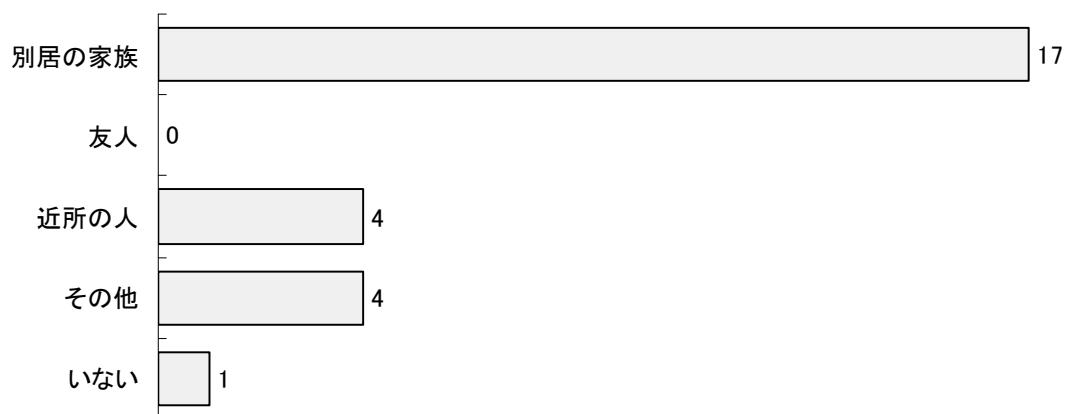
毎日	2日～3日に1回	1週間に1回	1週間に1回以下・ほとんど話をしない
14人	6人	0人	0人



□病気のときや、一人ではできない家の周りの仕事の手伝いなどについて頼れる人はいるか

病気のときや、一人ではできない家の周りの仕事の手伝いなどについて頼れる人がいるかについてみると、いないという回答は1人であった。別居の家族が17人と最も多くなっていた。

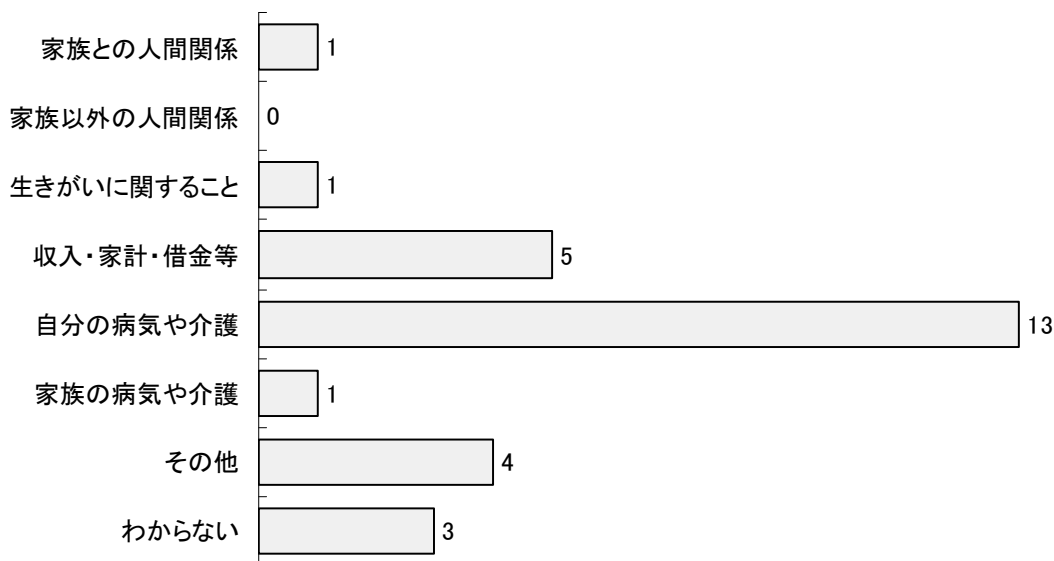
別居の家族	友人	近所の人	その他	いない
17人	0人	4人	4人	1人



□将来に対する不安事項（複数回答）

将来に対する不安事項についてたずねたところ、自分の病気や介護が13人で最も多く、収入・家計・借金等が5人であった。

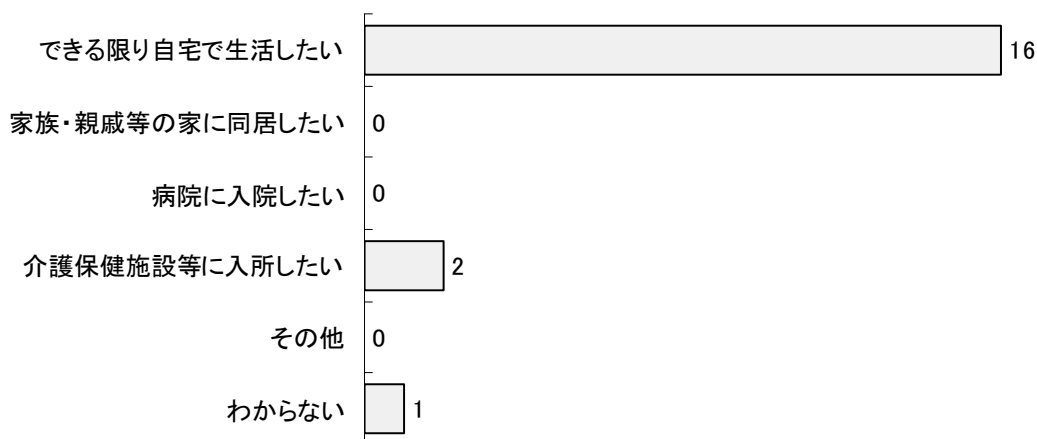
家族との人間関係	家族以外 の人間関係	生きがい に関する こと	収入・家 計・借金 等	自分の病 気や介護	家族の病 気や介護	その他	わから ない
1人	0人	1人	5人	13人	1人	4人	3人



□今後の希望する生活場所

今後の希望する生活場所についてみると、できる限り自宅で生活したいが16人であった。

できる限り 自宅で生活 したい	家族・親戚等 の家に同居 したい	病院に入院 したい	介護保健施 設等に入所 したい	その他	わから ない
16人	0人	0人	2人	0人	1人

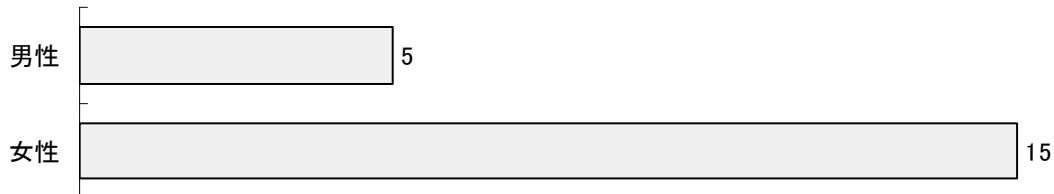


## (2) 埼玉県和光市

### □性別

性別は、男性 5 人、女性 15 人であった。

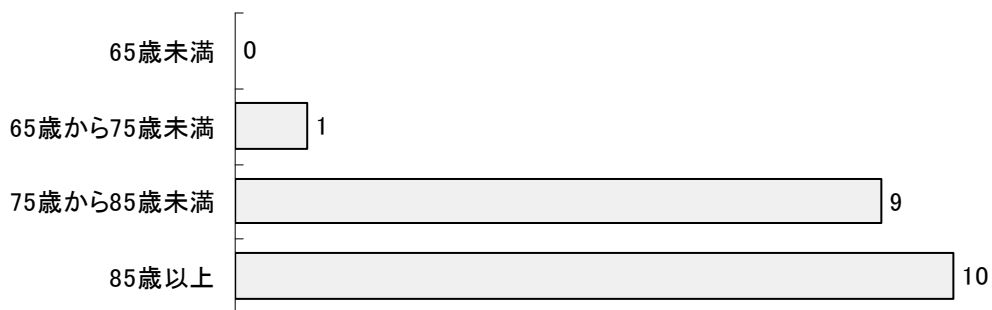
性別	男性	女性
人数	5 人	15 人



### □年齢（平成 23 年 2 月時点）

平成 23 年 2 月時点の年齢は、40 歳から 65 歳未満 0 人、65 歳から 75 歳未満 1 人、75 歳以上 85 歳未満 9 人、85 歳以上 10 人であった。

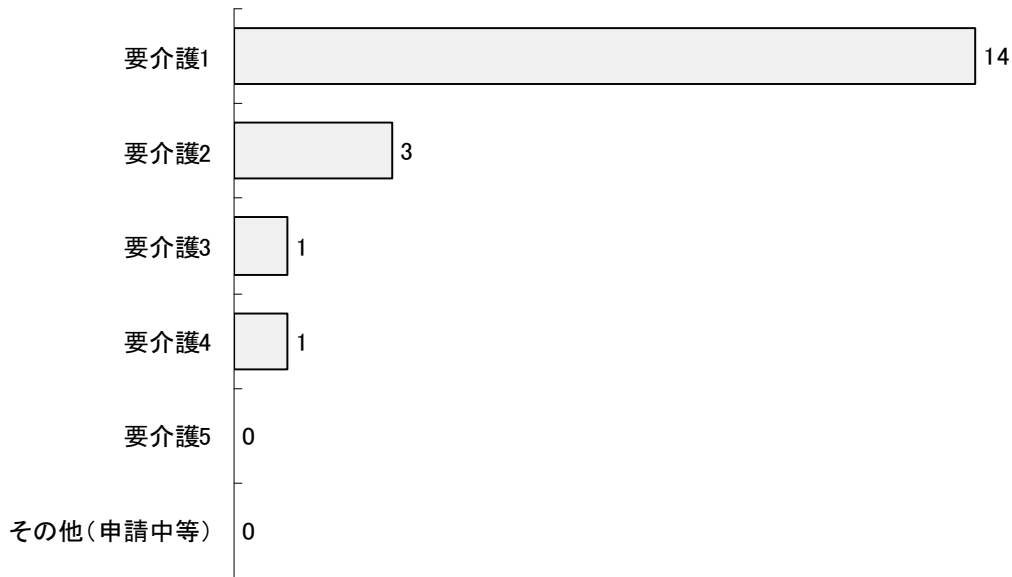
40 歳から 65 歳未満	65 歳から 75 歳未満	75 歳から 85 歳未満	85 歳以上	合計
0 人	1 人	9 人	10 人	20



□要介護度

要介護度についてみると、要介護1が14人、要介護2が3人、要介護3が1人、要介護4が1人、要介護5が0人であった。

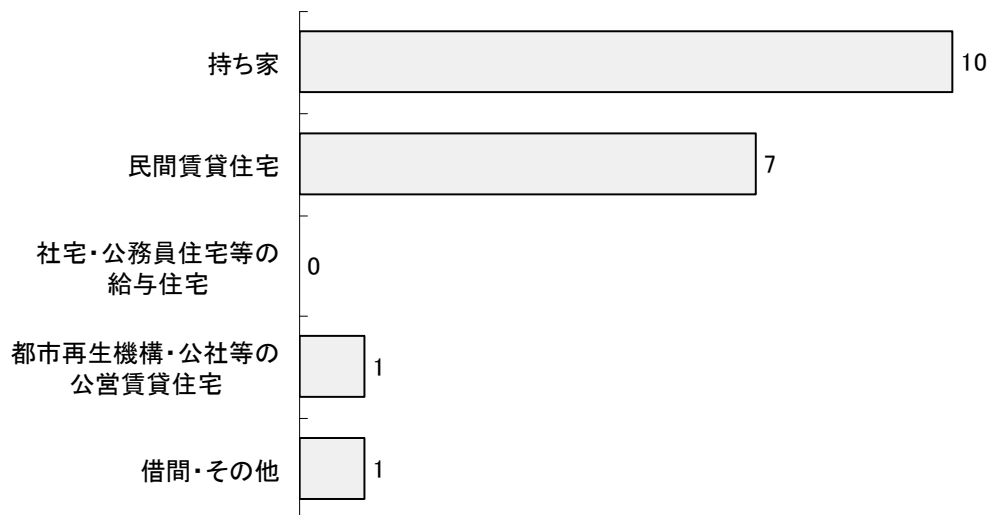
要介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他 (申請中等)
人数	14人	3人	1人	1人	0人	0人



### □住居の所有形態

住居の所有形態についてみると、持ち家が10人、民間賃貸住宅7人、都市再生機構・公社等の公営賃貸住宅1人、借間・その他1人であった。

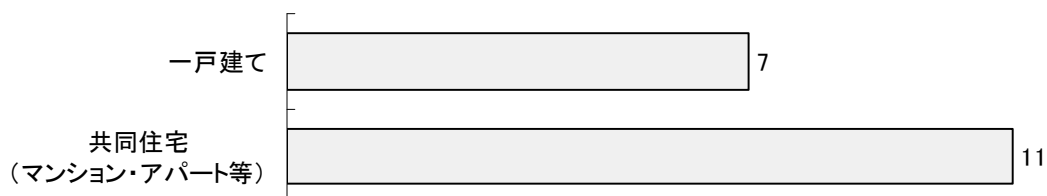
所有形態	持ち家	民間賃貸住宅	社宅・公務員住宅等の給与住宅	都市再生機構・公社等の公営賃貸住宅	借間・その他
人数	10人	7人	0人	1人	1人



### □住居の形態

住居の形態についてみると、一戸建て7人、共同住宅（マンション・アパート等）11人であった。

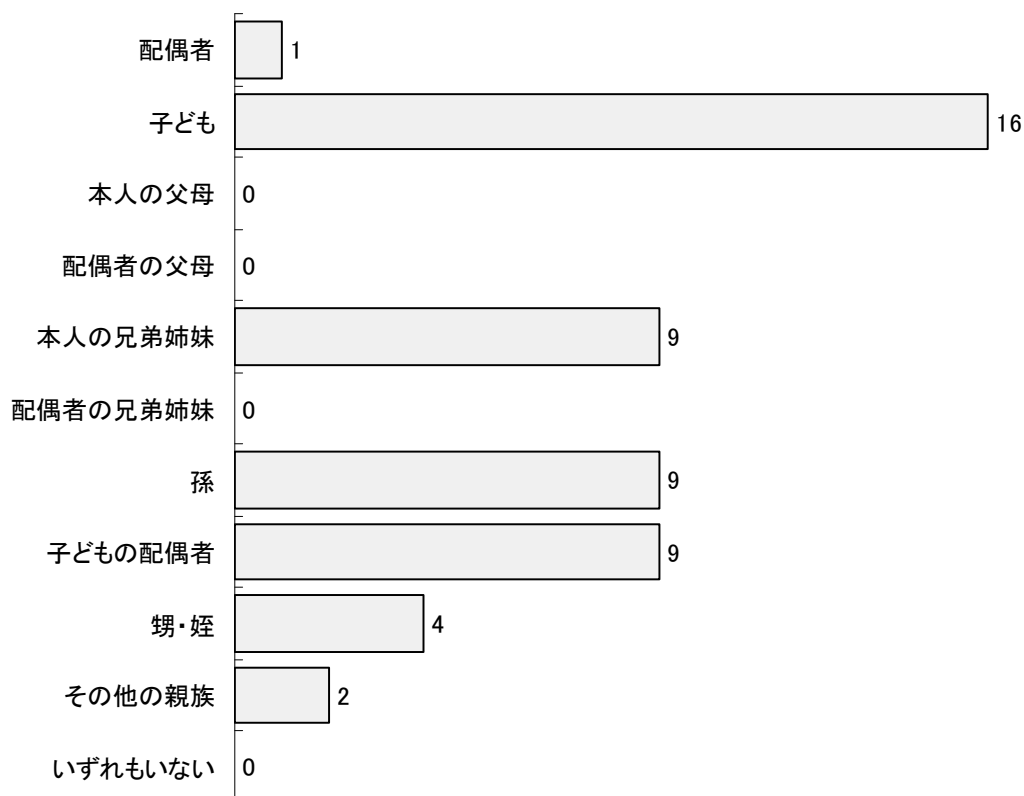
形態	一戸建て	共同住宅 (マンション・アパート等)
人数	7人	11人



□家族等の状況（複数回答）

家族等の状況（別居者含む）についてみると、配偶者がいる対象者が1人、子ども16人、本人の兄弟姉妹9人、孫9人、子どもの配偶者9人、甥・姪4人、その他の親族2人であり、家族等が全くいないという対象者はいなかった。

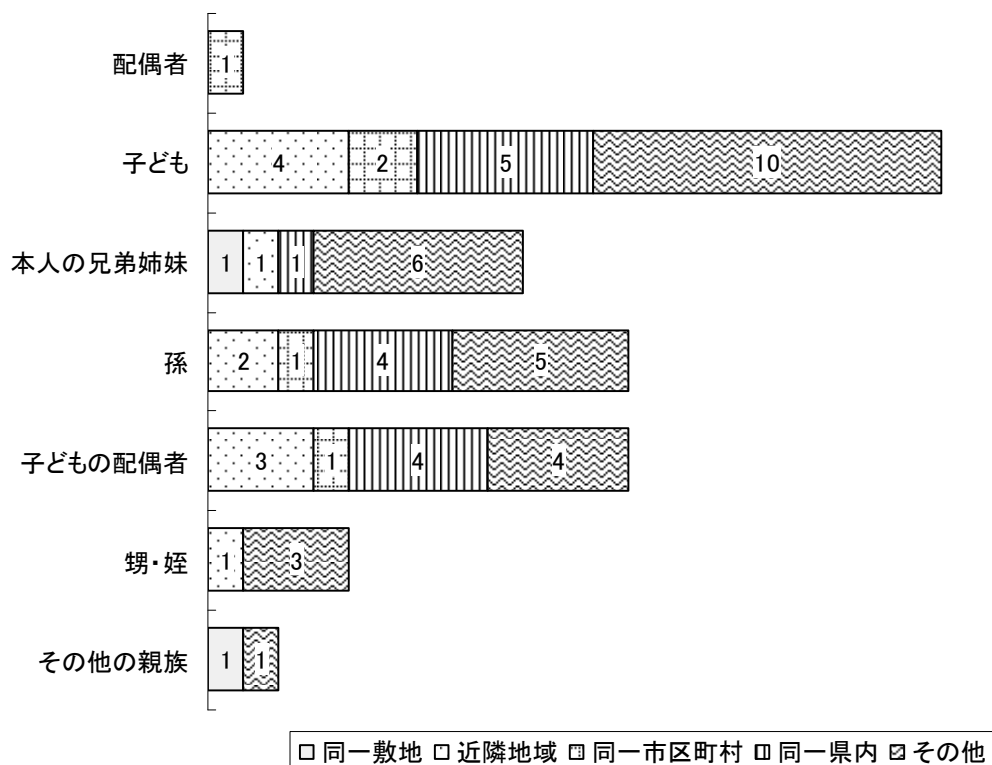
有無	配偶者	子ども	本人の 父母	配偶者の 父母	本人の 兄弟姉妹	配偶者の 兄弟姉妹	孫	子どもの 配偶者	甥・姪	その他の 親族	いずれも いない
人数	1人	16人	0人	0人	9人	0人	9人	9人	4人	2人	0人



## □家族の居住地域

家族等の居住地域について回答数の多かった子ども、本人の兄弟姉妹、孫、子どもの配偶者についてみると、子どものうち、近隣地域は4人、同一市区町村2人、同一県内5人、その他10人であった。本人の兄弟姉妹は、同一敷地1人、近隣地域1人、同一県内1人、その他の地域6人であった。孫は、近隣地域は2人、同一市区町村1人、同一県内4人、その他5人であった。子どもの配偶者では、近隣地域3人、同一市区町村1人、同一県内4人、その他4人であった。

	同一敷地	近隣地域	同一市区町村	同一県内	その他
配偶者	0人	0人	1人	0人	0人
子ども	0人	4人	2人	5人	10人
本人の兄弟姉妹	1人	1人	0人	1人	6人
孫	0人	2人	1人	4人	5人
子どもの配偶者	0人	3人	1人	4人	4人
甥・姪	0人	1人	0人	0人	3人
その他の親族	1人	0人	0人	0人	1人

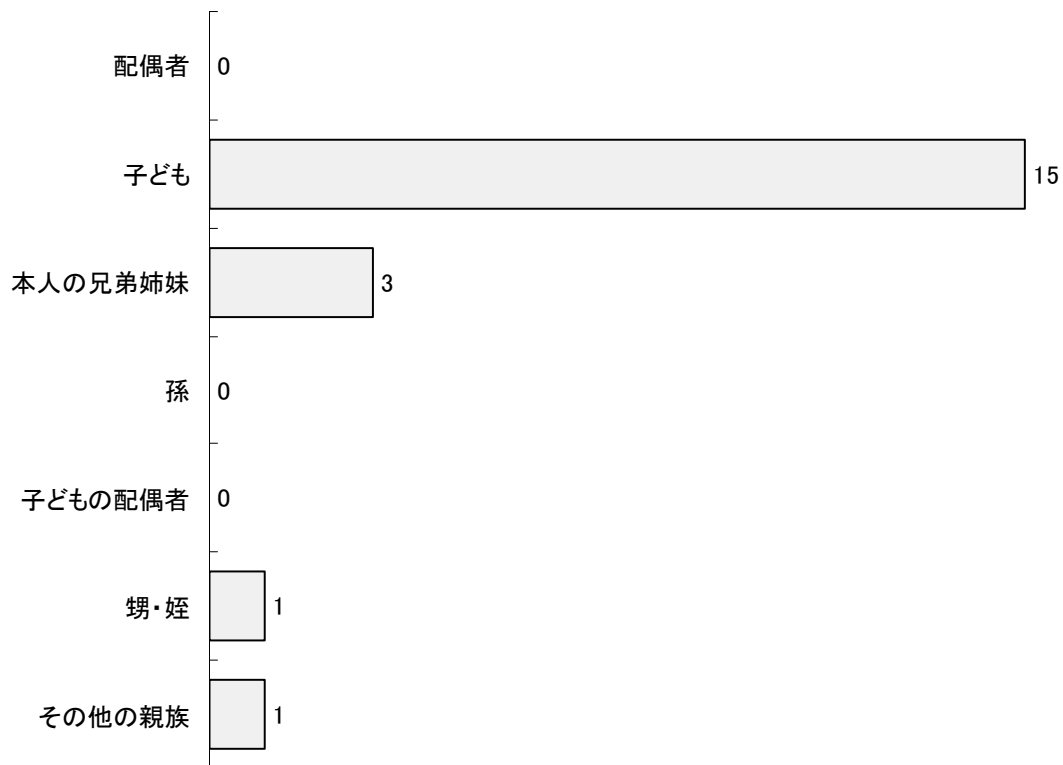




□緊急時の連絡先（複数回答）

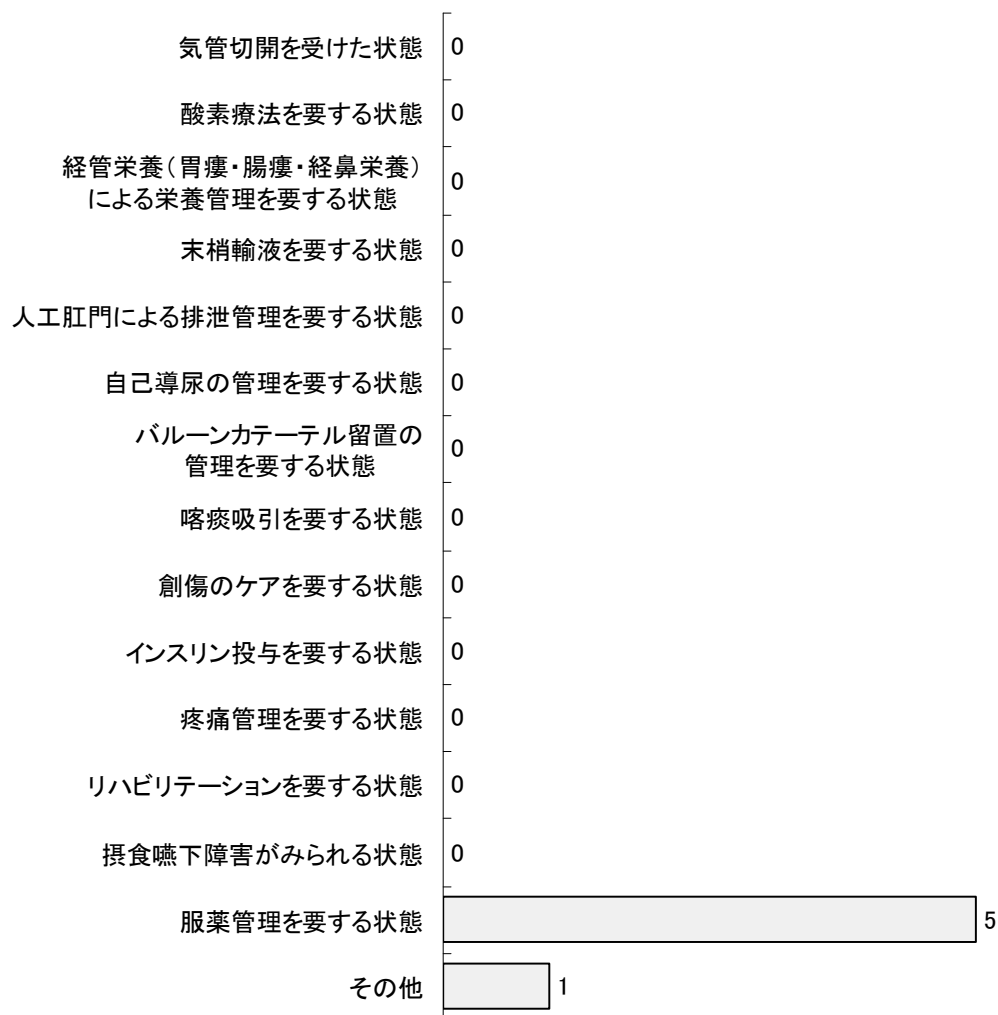
緊急時の連絡先は、子どもが15人であり、本人の兄弟姉妹3人と多くなっていた。

配偶者	子ども	本人の 兄弟姉妹	孫	子どもの 配偶者	甥・姪	その他の 親族
0人	15人	3人	0人	0人	1人	1人



□医療・ケア（複数回答）

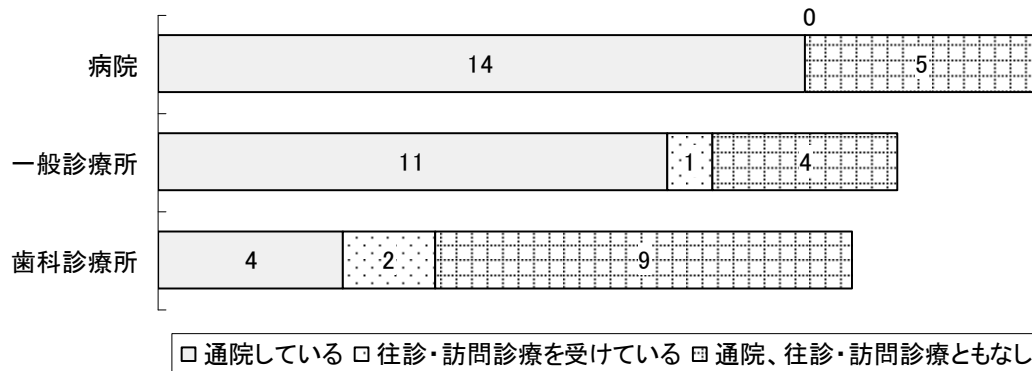
調査対象事例について、下記のうち現在受けている医療・ケアの内容についてみると、服薬管理5人であった。



□医療機関の受診状況

医療機関の受診状況についてみると、病院は、通院者が14人であった。一般診療所、歯科診療所は、通院、往診、訪問診療が、それぞれ11人、4人であった。

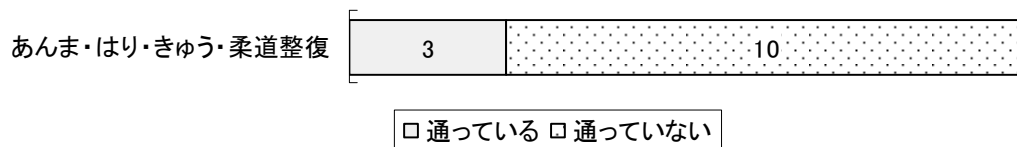
	通院している	往診・訪問診療を受けている	通院、往診・訪問診療ともなし
病院	14人	0人	5人
一般診療所	11人	1人	4人
歯科診療所	4人	2人	9人



<あんま・はり・きゅう・柔道整復>

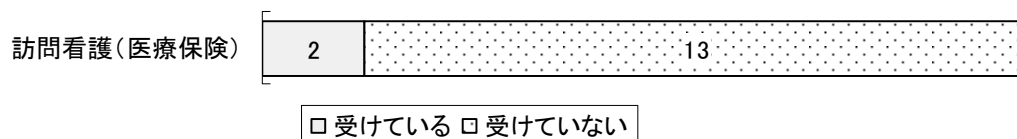
あんま・はり・きゅう・柔道整復は、3人が通っており、訪問看護（医療保険）は2人が受けていた。

	通っている	通っていない
あんま・はり・きゅう・柔道整復	3人	10人



<訪問看護(医療保険)>

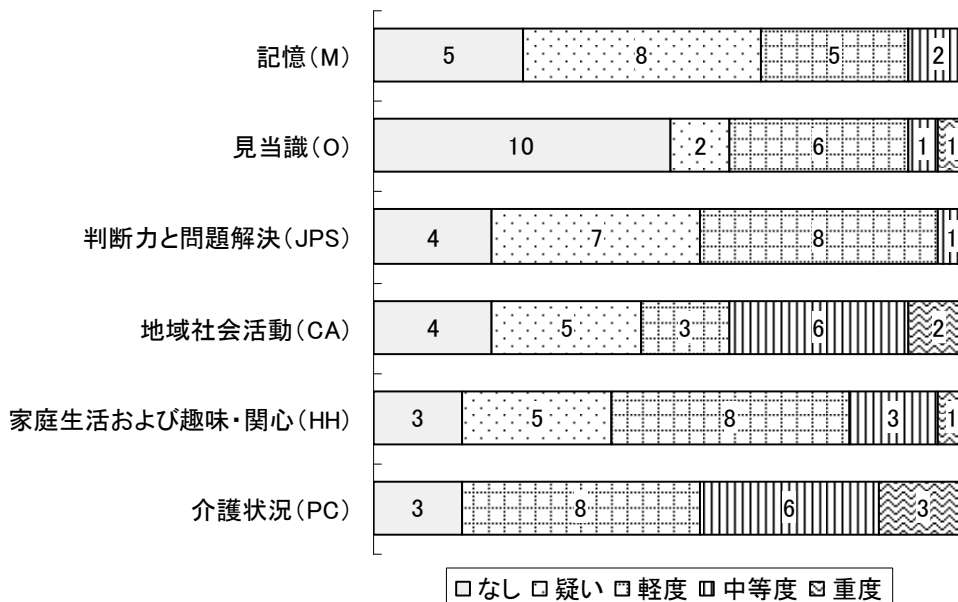
	受けている	受けていない
訪問看護（医療保険）	2人	13人



□CDR (Clinical Dementia Rating)

CDR (Clinical Dementia Rating) を構成する状態像の軽度以上の該当者をみると、記憶 (M) は 7 人、見当識 (O) 8 人、判断力と問題解決 (JPS) 9 人、地域社会活動 (CA) 11 人、家庭生活および趣味・関心 (HH) 12 人、介護状況 (PC) 17 人であった。

	なし	疑い	軽度	中等度	重度
記憶 (M)	5 人	8 人	5 人	2 人	0 人
見当識 (O)	10 人	2 人	6 人	1 人	1 人
判断力と問題解決 (JPS)	4 人	7 人	8 人	1 人	0 人
地域社会活動 (CA)	4 人	5 人	3 人	6 人	2 人
家庭生活および趣味・関心 (HH)	3 人	5 人	8 人	3 人	1 人
介護状況 (PC)	3 人		8 人	6 人	3 人



□認知機能・BPSD 等

あてはまる、すこし傾向があるの合計について該当者数が多いものをみると、会話中に「あれ」「それ」などの代名詞をよく使う、動作がのろくなってきている、忍耐力がなく、集中力が低下している、意欲がなく、新しいことへの興味が無い、新しい歌やゲームが覚えられないの順であった。

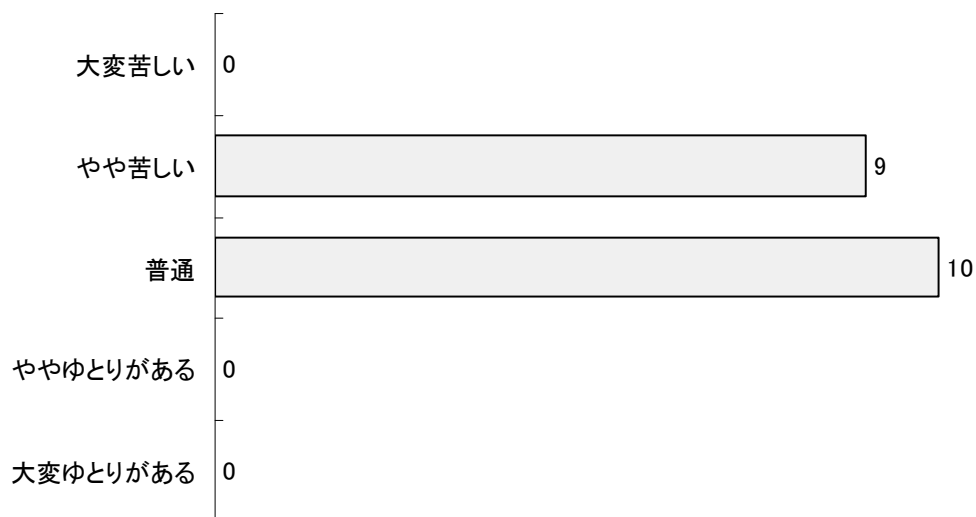
会話中に「あれ」「それ」などの代名詞をよく使う	7	12	1
夕方になると時間や場所が分からなくなり、変なことを言う	2	18	
意欲がなく、新しいことへの興味が無い	1	12	7
ごく簡単なことでも理解できない	1	7	12
発想が乏しい	1	9	10
身だしなみを気にしない	1	5	14
動作がのろくなってきている	8	7	5
食べ物でないものを食べようとする		20	
ちょっとしたことでもイライラする	1	8	11
過去に意識を失うほど、頭を強く打ったことがある	1	19	
重ね着をしたり、着衣の順を誤ったりする	6	13	
不潔、清潔の区別がつかず、わざと汚したりする	1	3	16
やさしい計算でも間違える	2	7	11
今日が何日か、何曜日かが正確に言えない	5	3	12
食事したことを忘れ、何度も食事を要求する	1	19	
時々、死にたいと言う	2	1	17
新しい歌やゲームが覚えられない	3	10	7
よく知った人の顔を見ても分からない、又は誤る	2	2	16
忍耐力がなく、集中力が低下している	4	11	5
自発性に乏しく、他人に頼りがちである	5	6	9
「声が聞こえる」「虫が見える」などの幻覚がある	2	1	17

あてはまる すこし傾向がある あてはまらない

□生活意識の状況（現在の暮らしの状況を総合的にみてどのように感じていますか）

生活意識の状況についてみると、普通が10人であり、苦しい（大変苦しいとやや苦しいの合計）が9人、ゆとりがある（ややゆとりがあると大変ゆとりがあるの合計）はみられなかった。

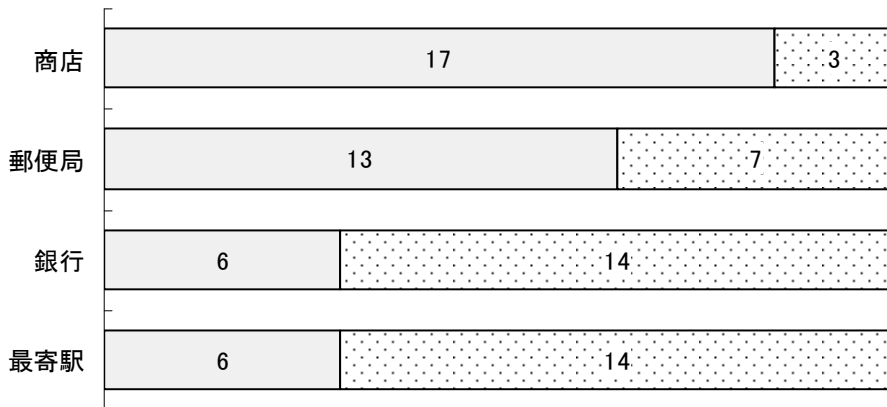
大変苦しい	やや苦しい	普通	ややゆとりがある	大変ゆとりがある
0人	9人	10人	0人	0人



□もっとも近い商店・郵便局・銀行・駅までの手段、所要時間

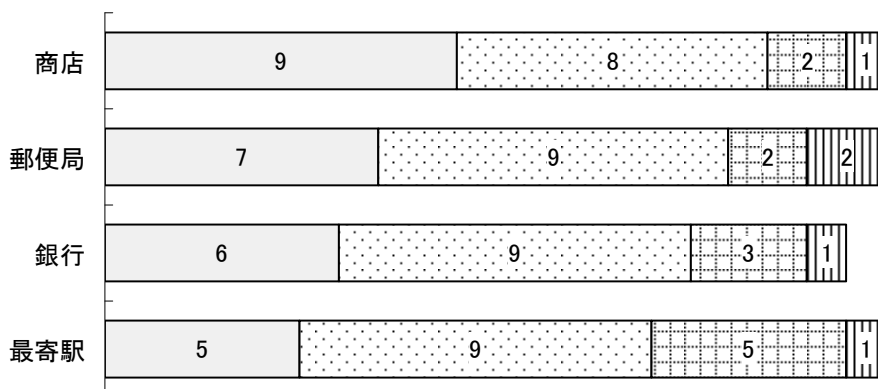
下記までの移動手段についてみると、商店、郵便局は徒歩が最頻値であり、銀行、最寄り駅はバス・車が最も多かった。また、それぞれの所要時間は、商店を除き10分から19分が最頻値であった。

	徒歩	バス・車	電車	その他
商店	17人	3人	0人	0人
郵便局	13人	7人	0人	0人
銀行	6人	14人	0人	0人
最寄駅	6人	14人	0人	0人



□ 徒歩 □ バス・車 □ 電車 □ その他

	10分未満	10～19分	20～29分	30分以上
商店	9人	8人	2人	1人
郵便局	7人	9人	2人	2人
銀行	6人	9人	3人	1人
最寄駅	5人	9人	5人	1人

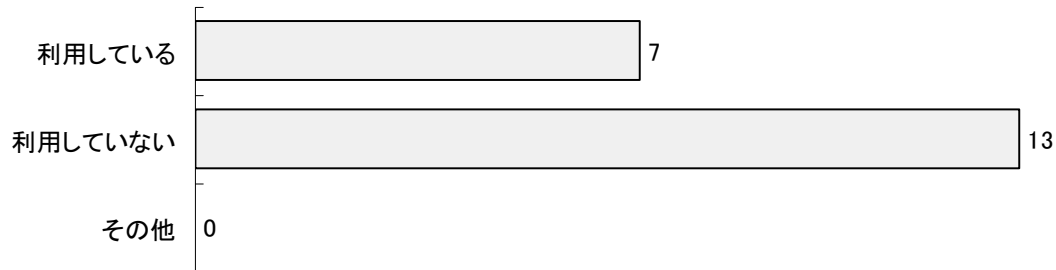


□ 10分未満 □ 10～19分 □ 20～29分 □ 30分以上

### □緊急通報システム

緊急通報システムを自宅に置いている対象事例は、7人であった。

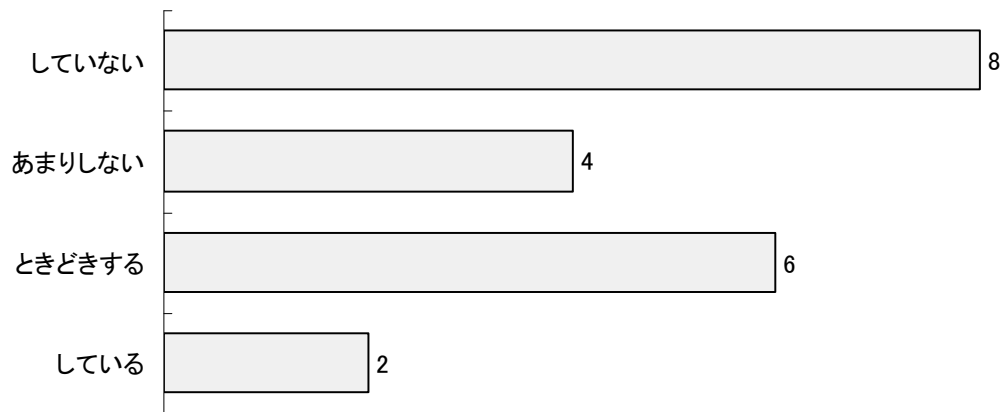
利用している	利用していない	その他
7人	13人	0人



### □友人との付き合い（会ったり、手紙や電話のやりとりをしている）

友人との付き合い（会ったり、手紙や電話のやりとり）についてみると、ときどきする、しているが8人、していない、あまりしていないが12人であった。

していない	あまりしない	ときどきする	している
8人	4人	6人	2人

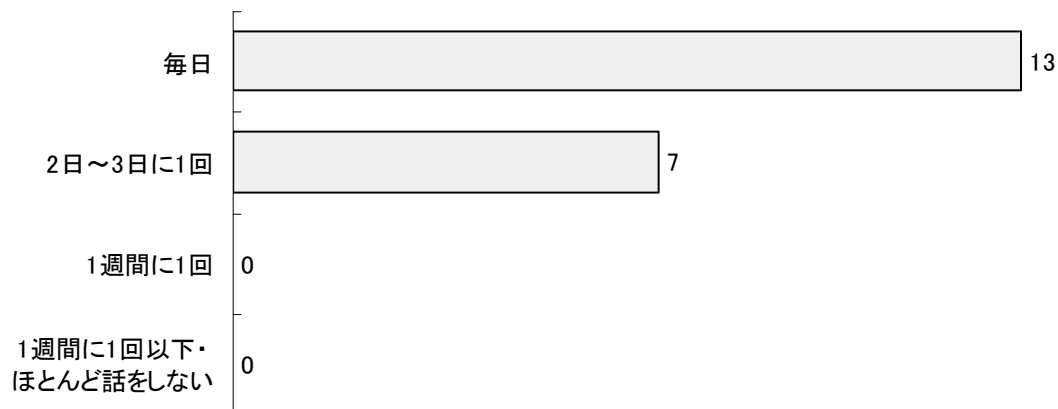




□ふだんどの程度、人（家族等も含む）と話をするか（電話やEメールも含めて回答）

ふだんどの程度、人（家族等も含む）と話をするか（電話やEメールも含む）をみると、毎日が13人と最も多くなっていた。

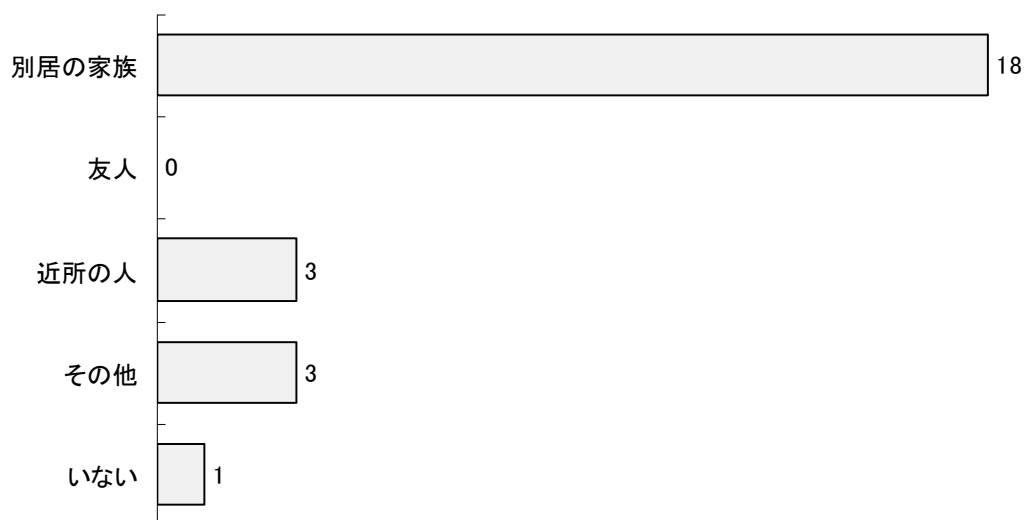
毎日	2日～3日に1回	1週間に1回	1週間に1回以下・ほとんど話をしない
13人	7人	0人	0人



□病気のときや、一人ではできない家の周りの仕事の手伝いなどについて頼れる人はいるか

病気のときや、一人ではできない家の周りの仕事の手伝いなどについて頼れる人がいるかについてみると、いないという回答は1人であった。別居の家族が18人と最も多くなっていた。

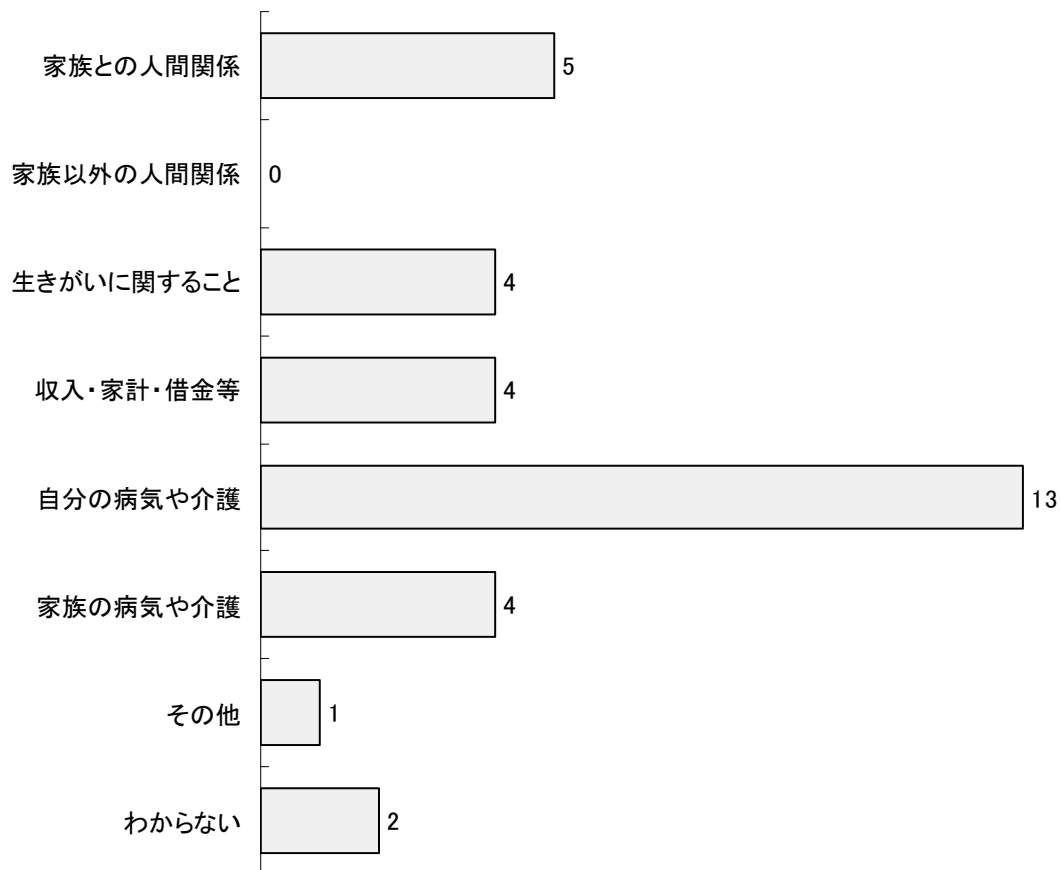
別居の家族	友人	近所の人	その他	いない
18人	0人	3人	3人	1人



□将来に対する不安事項（複数回答）

将来に対する不安事項についてたずねたところ、自分の病気や介護が13人で最も多く、家族との人間関係5人であった。

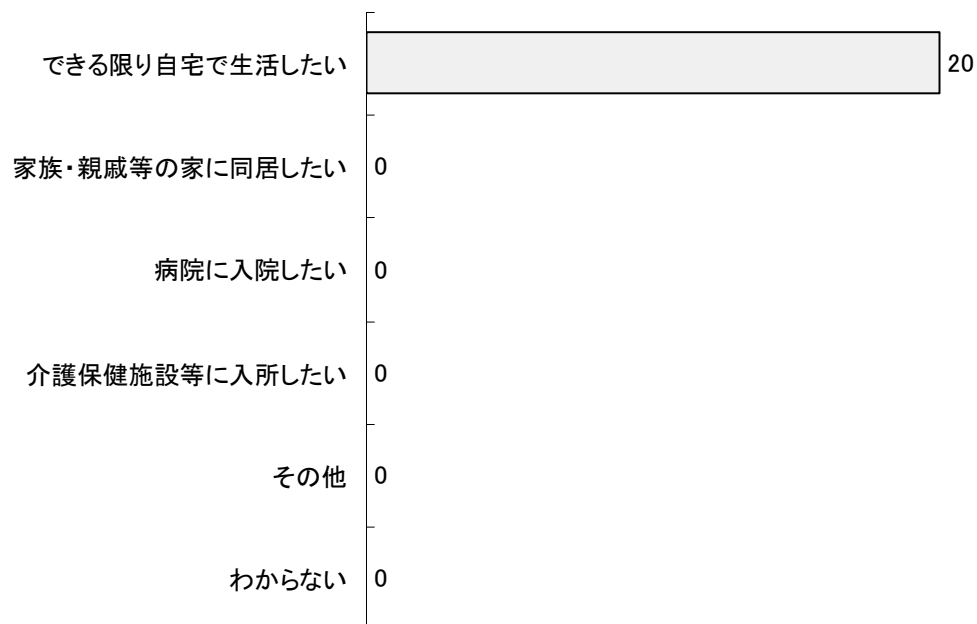
家族との人間関係	家族以外 の人間関係	生きがい に関する こと	収入・家計・借金 等	自分の病 気や介護	家族の病 気や介護	その他	わから ない
5人	0人	4人	4人	13人	4人	1人	2人



### □今後の希望する生活場所

今後の希望する生活場所についてみると、全員が、できる限り自宅で生活したいという回答であった。

できる限り 自宅で生活 したい	家族・親戚等 の家に同居 したい	病院に入院 したい	介護保健施 設等に入所 したい	その他	わからない
20人	0人	0人	0人	0人	0人



### 3.2 「ケア時間調査およびケア内容調査」

#### (1) 鹿児島県薩摩川内市

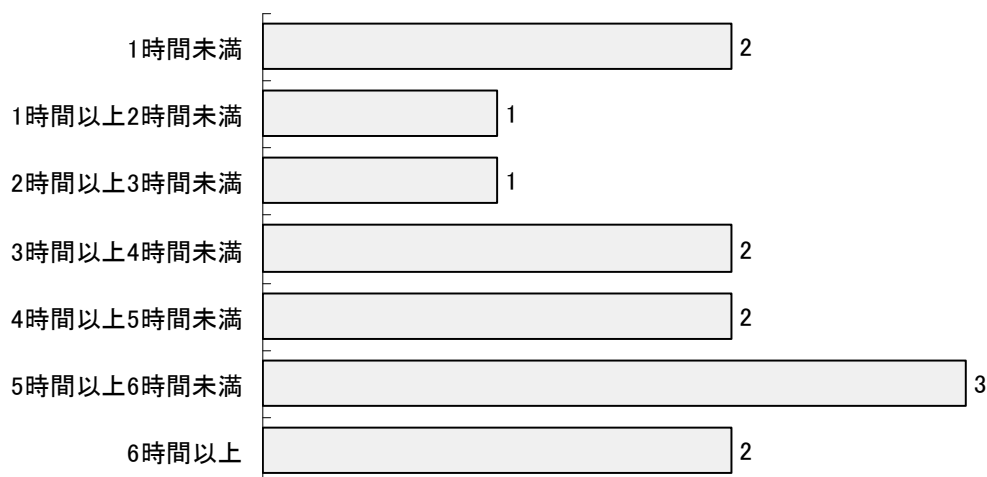
#### □1 日当たりの他者との関わり・支援時間（休日1日を含む3日間の1日当たり平均時間）

調査対象期間3日間（休日1日含む）に調査対象事例13人が、他者との関わり、支援を受けた時間についてみると、最大値は1日当たり平均7時間3分、最小値43分であった。

1日当たり平均の時間区分別にみると、8人が5時間未満までの時間帯に含まれていた。

1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 3時間未満	3時間以上 4時間未満	4時間以上 5時間未満	5時間以上 6時間未満	6時間以上
2人	1人	1人	2人	2人	3人	2人

※最大値7時間3分、最小値43分



## □訪問目的

- ・おしゃべり、遊び、お茶、おすそ分け（食事を届ける）、声かけ、安否等確認（電話含む）、様子伺い、手伝い

A-1	あそび、おかずをあげる、お茶、お菓子を食べる
A-1	様子見
A-1	おかずを貰う、お茶、お菓子
A-1	お茶、お裾分け貰う
A-1	電話、安否確認
A-1	電話、話、安否確認
A-2	おしゃべり、お茶
A-2	様子見、話、夕食作り
A-2	お茶のみ
A-2	おしゃべり、顔を見に
A-2	おしゃべり
A-2	夕食届け、おしゃべり
A-2	大根のお裾分け
A-2	夕食届け、おしゃべり他
B	声かけ、庭掃除の手伝い
B	広報の配布、おしゃべり
B	声かけ、庭掃除
B	資源ごみを取りにくる
B	声かけ、庭掃除
C-2	声かけ、様子伺い
D-1	電話、安否確認
D-1	果物差し入れ、おしゃべり、お絵かき
D-1	資源ごみを捨てる手伝い、買い物、ゲーム、夕食を食べる
D-1	安全確認の電話
E	自宅周りの草取り、室内確認
E	電話確認（食事の有無、内服の声かけ）
E	食事、内服の確認
E	朝食、服薬確認の電話
E	夕食、服薬確認の電話
F-1	食事の差し入れ、様子確認
F-1	晩酌用焼酎
F-1	布団かけ
F-2	電話（安否確認）
G-1	差し入れ、外出
G-1	様子伺い
H-2	朝昼の食事を届ける、安否確認
H-2	安否確認、おしゃべり
H-2	入院の打ち合わせ、室内清掃、おしゃべり
H-2	お裾分け、おしゃべり
H-2	旅行先のお土産渡す、おしゃべり

H-2	食事の準備、食事、片付け
H-2	朝食を届ける
H-2	安否確認、おしゃべり
H-2	食事の準備
H-2	畑作り（手伝い）
H-2	食事の準備、片付け
H-2	安否確認の電話
H-2	朝食準備、安否確認、おしゃべり
H-2	安否確認、おしゃべり、食事の後片付け
H-2	食事準備、一緒に食事、安否確認、後片付け、温泉に出かける
I-2	安否確認、おしゃべり
J-2	友達より宅急便おすそ分け
J-2	おかず差し入れ、おしゃべり、トランプ、花苗植え
J-2	声かけ
J-2	おすそ分け
J-2	おしゃべり
J-2	おかずおすそ分け
J-2	差し入れ、温泉へ同行

・訪問介護、リハビリ、ホームヘルプ、通院

B	ホームヘルプ（掃除、買い物、デイケアの準備、コミュニケーション、体調確認）
B	デイケア迎え
B	デイケア送り
B	ホームヘルプ（掃除、洗濯、買い物、コミュニケーション）
C-2	ホームヘルプ（掃除、洗濯、こたつ布団干し、着替え、整容の声かけ）
D-1	送迎支援（通所リハビリの迎え）
D-1	送迎支援（通所リハビリの送り）
E	通所介護スタッフ迎え（火の点検、朝食後の内服確認、更衣確認）
E	通所介護スタッフ送り（夕食後の内服確認）
F-1	訪問介護（更衣介助、清拭、オムツ交換、ベッドメイキング、洗濯、洗濯干し、ポータブルトイレの移動、移乗一部介助）
F-1	訪問介護（調理、配膳、下膳、後片付け、おむつ交換、清拭、更衣介助、洗濯、トイレ片付け）
F-1	訪問介護（調理、配膳、下膳、後片付け、おむつ交換、清掃）
F-1	訪問介護（調理、配膳、下膳、後片付け、更衣介助、清拭、オムツ交換、ベッドメイキング、布団干し、洗濯、洗濯干し、ポータブルトイレ移動介助）
F-1	訪問介護（買い物、調理、配膳、下膳、後片付け、ベッドメイキング、ポータブルトイレ移動、移乗介助、尿取りパット交換、布団取り入れ、ポータブルトイレ後処理）
F-1	訪問介護（調理、配膳、下膳、後片付け、おむつ交換、清拭）
F-1	訪問介護（更衣介助、清拭、オムツ交換、清拭、布団干し、調理、配膳、下膳、後片付け、洗濯、洗濯干し、ポータブルトイレの移動、移乗一部介助、ごみ出し）
F-1	訪問介護（調理、配膳、下膳、後片付け、ポータブルトイレ誘導・処理、ベッドメ

	イキング、尿取りパット交換)
F-1	訪問入浴
F-2	ホームヘルパー（買い物、部屋の掃除、ごみ出し、薬受け）
F-2	通所リハビリテーション（送迎、バイタルチェック、入浴、個別リハ、物療、体操、昼食、休憩、音楽、レクリエーション、おやつ）
G-1	訪問介護（ごみだし、食事準備、後片付け、デイ準備、服薬準備、歯磨き、洗面、整容、着替え、買い物の品確認、お金預かり、体重測定）
G-1	通所リハビリ（送迎、入浴介助、バイタルチェック、お茶、お昼、リハビリ、物理療法、レク、心疾患のテープ貼り替え）
G-1	通所リハビリ送り
G-1	訪問介護（買い物、食事の準備、後片付け、洗濯、トイレ介助、口腔ケア、着替え、服薬準備確認）
G-1	訪問介護（食事準備、後片付け、清拭、服薬準備・確認、洗面、トイレ介助、体重測定、心疾患のテープ貼り替え）
G-1	訪問介護（食事の準備、後片付け、服薬準備・確認）
G-1	訪問介護（食事準備、後片付け、服薬準備・確認、洗面、清拭、トイレ介助、体重測定、ニトロダームシップ貼り替え）
G-1	訪問介護（食事の準備・後片付け、服薬準備・確認、トイレ介助）
H-1	ホームヘルプ（食事の準備、ポータブルトイレ片付け、病院受診のための準備、食事後片付け）
H-1	迎え（病院受診）
H-1	送り（病院受診）
H-1	ホームヘルプ（買い物、食事の準備、洗濯、洗濯物取り込み、ポータブルトイレ片付け、食事片付け）
H-1	ホームヘルプ（食事の準備、掃除、ポータブルトイレ片付け、デイサービス送り出しの準備、食事の片付け、洗濯物干し、デイサービス送り出し）
H-1	ホームヘルプ（洗濯、食事の準備、ポータブルトイレ片付け）
H-1	ホームヘルプ（食事の準備、ポータブルトイレ片付け、食事の片付け、灯油補給）
H-1	ホームヘルプ（洗濯物取り込み、食事の準備、ポータブルトイレ片付け、食事の片付け、おしゃべり）
I-2	ホームヘルプ（食事の準備、布団干し、掃除、コミュニケーション、日常の観察、家族への連絡事項）
I-2	通所リハビリ（健康チェック、移動時の介助、おしゃべり、持ち物チェック）
I-2	ホームヘルプ（食事の準備、掃除、買い物のメニュー決め、コミュニケーション）
J-2	リハビリ

・新聞配達、宅急便等

A-1	福祉弁当配達
A-2	配食サービス
B	新聞配達
B	弁当配食
B	宅配集荷
C-2	給食サービス（配達、声かけ）

E	訪問給食サービス（夕食の配達、声かけ、安否確認）
E	訪問給食サービス（昼食の配達、声かけ、安否確認）
J-2	宅急便配達

・外出（デイケア、リハビリ、通院以外）

G-1	外出、ドライブ
H-2	一緒に美容室へ出かける
H-2	お墓参りに一緒に出かける
H-2	温泉へ外出
J-2	近所の方、税金申請に一緒に行きましょう、誘いに
J-2	温泉へ同行

・その他

A-1	迎え
A-1	タクシー代を持ってくる
A-2	倫理の本を貰う
A-2	調査票の説明、3月分の利用表を貰う
B	ガスコンロ交換
C-2	自治会（現状把握、自治会費還元金渡し、税申告日程及び同伴の件）
C-2	自治会（税申告書類内容聞き取り、代書、当日の携行品確認）
H-1	消毒液配布
H-1	火災報知器の設置確認と取り扱い説明



## (2) 埼玉県和光市

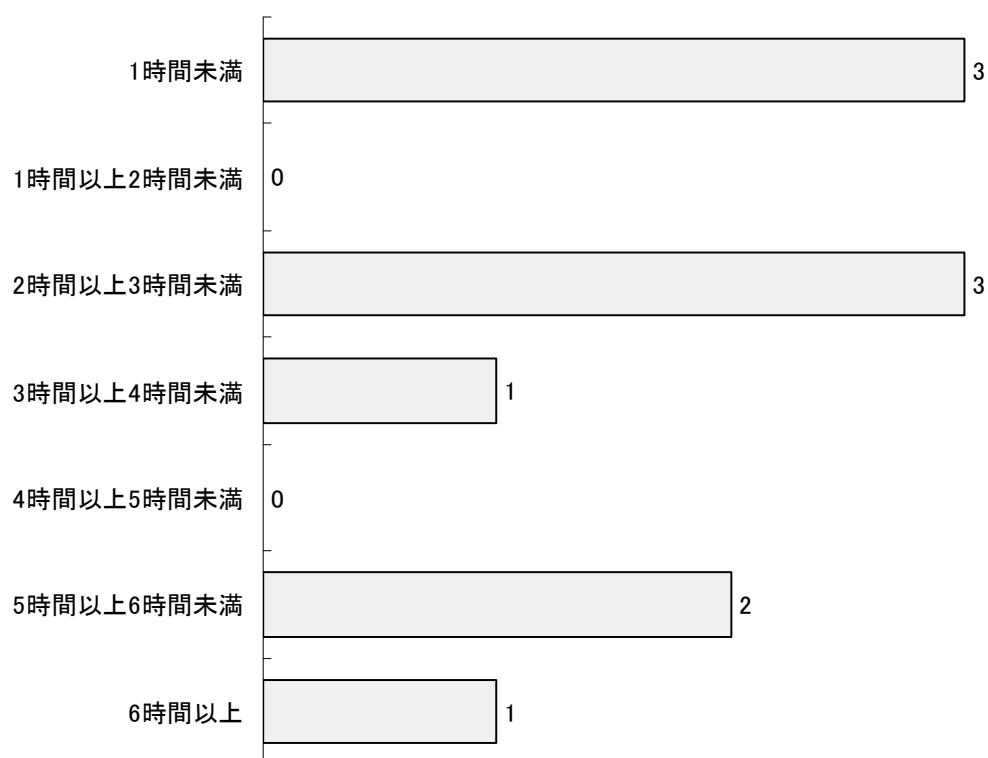
### □1日当たりの他者との関わり・支援時間（休日1日を含む3日間の1日当たり平均時間）

調査対象期間3日間（休日1日含む）に調査対象事例10人が、他者との関わり、支援を受けた時間についてみると、最大値は1日当たり平均13時間10分、最小値29分であった。

1日当たり平均の時間区分別にみると、3時間未満までの時間帯に6人が含まれていた。

1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 3時間未満	3時間以上 4時間未満	4時間以上 5時間未満	5時間以上 6時間未満	6時間以上
3人	0人	3人	1人	0人	2人	1人

※最大値13時間10分、最小値29分



## □訪問目的

- ・おしゃべり、食事のおすそ分け、安否等確認（電話含む）、様子伺い、手伝い

K-2	コミュニケーション
K-2	食事のおすそ分け、コミュニケーション
L-2	集合住宅の修繕に関する書類及び連絡、火災保険の更新手続きの手伝い、買い物、食材の整理、おすそ分け、夕食の準備と片付け、おしゃべり
L-2	昼食（一緒に）、テレビ（一緒に）、買い物、おしゃべり
N-2	食器持参、ベランダ掃除
N-2	ホームヘルプ（食事の準備、後片付け、掃除、衣服の手入れ、公園散歩の介助）一泊
P-2	魚釣りの帰りに車を置きに来た。顔だけ見せてすぐ帰った。
R-1	雨戸がしまりにくいので手伝いに来る。
T-1	ちょっと顔を見に来た。

- ・訪問介護、リハビリ、ホームヘルプ、通院

K-1	デイサービスお迎え、デイサービス帰り
K-1	ホームヘルプ（土日の食事の調理、安否確認、ごみ捨て）
K-2	眼科通院補助
L-2	ホームヘルプ（朝食準備、ポータブルトイレ片付け、掃除）
L-2	ホームヘルプ（食事の準備、後片付け、ポータブルトイレ掃除、コミュニケーション）
L-2	ホームヘルプ（昼食準備、掃除、コミュニケーション）
L-2	リハビリへの身支度手伝い、リハビリへの付き添い
L-2	ホームヘルプ（食事の支度、洗濯物たたみ、コミュニケーション）
L-2	ホームヘルプ（食事の準備、ポータブルトイレ内の片付け、コミュニケーション）
L-2	ホームヘルプ（昼食の準備、配膳、後片付け）
L-2	ホームヘルプ（食事準備、後片付け、トイレ掃除、コミュニケーション、栄養士さんからの商品受け取り、商品受け取り、支払い、加湿器水補給、ゴミ出し）
N-1	ホームヘルプ（薬のカレンダー付け、掃除、食器洗いと片付け、会話）
N-2	センターへの送迎、入浴、運動、食事、口腔衛生の指導など
N-2	ホームヘルプ（食事の準備、後片付け、掃除）
O-2	ホームヘルプ（声かけ、雨戸を開ける、食事の支度、水分補給、トイレの移動介助、入浴、更衣介助、浴槽・トイレ掃除）
O-2	ホームヘルプ（声かけ、雨戸を開ける、食事の支度、水分補給、移動介助（トイレ、入浴）、入浴介助、配下膳、調理、服薬確認、更衣介助、居室掃除）
O-2	ホームヘルプ（戸締り、水分補給、夕食の配膳、昼食の下膳、見守り、コミュニケーション、服薬確認）
O-2	ホームヘルプ（戸締り、声かけ、配下膳、夕食の用意、テーブルへの移動介助、見守り、服薬確認、水分補給、コミュニケーション）
O-2	ホームヘルプ（声かけ、雨戸を開ける、食事の支度、水分補給、移動介助（トイレ、入浴）、入浴介助、配下膳、シーツ交換、共に行う調理、服薬確認、洗濯、更衣介助）
O-2	ホームヘルプ（戸締り、声かけ、配下膳、夕食の用意、洗濯、取り込み、テーブルへの移動介助、見守り、服薬確認、水分補給、コミュニケーション）
P-2	ホームヘルプ（着替え、デイ荷物準備・確認、車椅子介助、デイ送り出し）
P-2	移動支援（外出介助、買い物）

P-2	ホームヘルプ（夕食セット、朝食調理、洗濯物取り込み、ゴミ捨て、トイレ掃除）
P-2	ホームヘルプ（着替え、食事の準備、後片付け、入浴介助、洗濯）
R-1	通所迎え
R-1	通所送り
R-1	ホームヘルプ時の見学、おしゃべり
R-1	ホームヘルプ（入浴時（背面洗い他）後始末）
R-2	ホームヘルプ（服薬とゴミ出しの確認、デイサービスの準備と送迎）
R-2	歯科診療
R-2	デイサービス迎え
R-2	デイサービス送り
T-1	掃除、洗濯、片付けのあと、お茶を飲みながらお話（話し相手）
T-1	リハビリに行く付き添い（10:50～12:30 リハビリで小林病院へ）、洗濯など

・新聞配達、宅急便等

K-1	宅配サービス（昼食）
K-1	宅配サービス（夕食）
R-1	弁当宅配（安否確認）
R-2	宅配サービス（昼食）
R-2	民間宅配弁当の手渡し
T-1	お弁当配達

・外出（デイケア、リハビリ、通院以外）

K-2	外食
N-1	地域支援事業「そばの会」参加のための迎え
N-1	地域支援事業「そばの会」参加のための送り
N-2	公園散歩の介助

・その他

P-2	15周年記念の会で配布されたギフトカード2枚を届けてくれた。
R-2	マッサージ

### 3.3 「グループインタビュー調査」

#### (1) 鹿児島県薩摩川内市

##### □独居生活を継続している高齢者の属性

- ・近隣に家族等が居住している
- ・経済状況は、必ずしも関係がみられない
- ・定期的に家族等が関与する高齢者
- ・トイレ、食事の準備が、ある程度自分でできれば在宅生活は可能（定期的な家族等による支援は必要。特に買い物や、困りごとの対応が必要）
- ・女性の方が、在宅独居の適応力が高い
- ・昔から居住している地域に住み続けている高齢者（声かけ、地域支援を受けやすい、公民館活動）
- ・毎日安否確認を受けられる状況
- ・近所の訪問が多い高齢者
- ・体を動かすことができる認知症高齢者は、在宅生活を継続できる傾向にある（BPSDは困難）
- ・介護保険の自己負担が困難であるため、サービス利用に制約があることは、在宅生活継続の負の要因となる（経済力）
- ・鹿児島県は持ち家率が高く、住宅改修率も高い（状態に応じて段階的に住宅改修を続ける率も高い）

##### □独居在宅要介護高齢者が日常生活の中で困っている事項

- ・トイレの移動（これができなくなったときに施設入所を考える傾向にある）
- ・ごみの分別とごみ出し
- ・服薬管理
- ・金銭管理
- ・金融機関にいけない場合に支援が必要
- ・家族等の支援意識が薄い場合
- ・重いものを含む買い物
- ・地域に迷惑をかけているという意識が施設入所を加速する
- ・話し相手の不在
- ・消費者被害
- ・夜間の見守りが必要（転倒、火の管理、病状の悪化、空調管理等）
- ・緊急事態が発生していてもサービスが入らないと発見されない

##### □対処方法

- ・移動販売車は、重い買い物時に利用する率が高い
- ・配達サービスの利用
- ・送迎サービス付きのスーパー
- ・通所サービス利用時は、買い物をしたいという要望が頻繁に挙がる

- ・配食サービス時に、服薬等を促す
- ・居宅療養管理指導を行っている調剤薬局に依頼する（服薬管理しやすい配薬方法の工夫）
- ・タクシー会社が、高齢者の支援を行う（病院、買い物、お金の引き出し）
- ・社会福祉協議会の財産管理
- ・金融機関の職員が預金を届ける
- ・ヤクルト訪問者が安否確認の機能を担う
- ・携帯電話のメールで、家族等近隣者とやりとりを行い自分の状況や手助けして欲しいこと等を連絡
- ・電話を通じてコミュニケーションの機会を得る
- ・ガス、水道の利用状態から安否確認を行う
- ・近隣居住者の中に、困ったときの相談相手を持っている
- ・デイサービスで友人をつくりお互いが手助けをしあう
- ・経済的に負担能力が低い場合には、食事、排泄、入浴に絞ってケ支援を組み立てる
- ・短時間低料金で利用できる民間サービス等の活用
- ・介護サービスが補完できない部分の多くを民生委員が支援している
- ・自治会単位の見守り
- ・看取り、葬儀を行う家族等が不在であり、民生委員や自治体が受けおうケースがある（生活保護であれば行政が担う。年金生活者で孤立している高齢者を受け止める対象が不明確である）
- ・地域住民が認知症や精神疾患等についての知識を持つ必要がある（見守り機能が高まる）
- ・公共交通機関を充実させる
- ・地域でのサロン活動を活発にして社会的な交流の場をつくる
- ・孤立傾向に向かっている高齢者を発見する仕組みをつくり、地域につなぎとめる
- ・家族等のちょっとした配慮、見守りという思いやり
- ・地域の見守り組織がお互いに持っている情報を交換する必要がある（民生委員、老人クラブ、自治会、社会福祉協議会、女性団体 等）
- ・NPOによる送迎サービスは、費用が安く利用しやすい
- ・電動カーの利用（医療機関の受診と年金の引き出し）
- ・比較的元気なときから、困ったときに連絡する相手、緊急時の連絡先、鍵の場所等を地域に知らせておくことが必用
- ・困ったことが生じた時にすぐにたずねてきてくれる人がいるという安心感をつくる
- ・親族等の役割に関する教育（意識醸成）
- ・地域支援組織の強化（民生委員、自治会、アドバイザー）
- ・見守りを目的としたカメラの活用
- ・セルフヘルプグループの創設（乗り合いタクシーの調整等、同じニーズを持った高齢者を調整する）
- ・地域住民の人間関係、サポート関係を把握するための地図をつくる
- ・医療保険、介護保険料の滞納者、年金をもとにした借金による負債者には、認知症高齢者が少なくない。支払い状況等から対象者を発掘し、支援をする必要がある。
- ・民生委員の数を増やす

## (2) 埼玉県和光市

### □独居生活を継続している高齢者の特徴（属性）

- ・完全独居高齢者、近隣に親族等が居住している高齢者、日中独居高齢者（同居家族等が存在する）によって生活状況は支援ニーズが異なる
- ・経済力が低いと在宅での独居生活は継続しにくい
- ・出入りに階段を利用するアパート
- ・坂道に隣接した住居
- ・車椅子が自宅に入れられる間取りか
- ・家族支援の有無（近隣居住か遠方居住かによって異なる）。特に病気に対する関わりが重要。
- ・家族等から精神的サポートがあるか否か
- ・自分自身の介護経験から、家族等の負担感を心配することがマイナス要因

### □独居在宅要介護高齢者が日常生活の中で困っている事項等

- ・食事が作りにくい。栄養等を考慮した食事が作れない
- ・買い物に出にくい（病気、下肢筋力の低下が原因であることが多い）
- ・蛍光灯がかえられない
- ・通院が一人できない（定期的通院）
- ・服薬管理ができない
- ・洗濯、掃除ができない
- ・消費者被害にあう
- ・火の管理ができない
- ・電話が聞こえない
- ・夜間の緊急事態発生時に対処できない
- ・鍵かけや安全管理ができない
- ・独居者には、他人からの介入を拒否する高齢者が少なからず存在する
- ・集合住宅地域は、地域住民間のつながりが弱く見守り機能が低下傾向（農村は高い）

### □対処方法

- ・民生委員が、鍵を預かり緊急時等に対処を行う
- ・配食サービスを利用し、食事づくり、栄養補給の機能を補う
- ・センサーによる安全管理
- ・訪問介護時に生協等からの注文をとる
- ・訪問介護を通じて、買い物指導と付き添いを行う
- ・自治体が独自に行っている共食サービスを利用する
- ・独居生活が困難になった原因について、本人の身体機能、環境、病気等によるものかの判断をする必要がある（整理して検討することによって対処方法が明確になる）。

- ・民生委員が、通常から小額のお金を預かり、必要に応じて買い物代行する
- ・15分単位の軽費民間ヘルプ事業所を活用する
- ・年会費制で訪問支援を受けられる電気店の活用
- ・訪問看護と訪問介護の役割分担（チェックと連絡）
- ・社会福祉協議会による住民同士の支えあい事業（有償ボランティア）は、掃除（草取り、大掃除）、調理、相談、話し相手、散歩の手伝い、代筆時に利用されることが多い
- ・地域包括支援センターが、高齢者にとって緊急時の連絡先となることを普及する
- ・定期健診で介護予防、見守り対象をスクリーニングする
- ・寝にかえる場所として自宅を持ち、日昼は小規模多機能型居宅介護支援事業所等で過ごすという生活パターンをつくる
- ・タクシーの利用

## 4. まとめ

事例調査の結果から、要介護の独居在宅高齢者が、自宅で生活を維持していくために必要な今後の支援策を明らかにすることを目指した。

### 4.1 事例の概要

#### □要介護状態（認知症症状も伴う）にある独居在宅生活者の存在

調査の結果、鹿児島県薩摩川内市、埼玉県和光市ともに、要介護状態にありかつ認知症症状もみられる独居在宅高齢者が生活を継続している事例が収集された。要介護度は、1 から 3 に集中する傾向にあるものの、要介護 4、5 の事例もあった。

家族等が全くいないという事例はなく、子ども、本人の兄弟姉妹、孫、子どもの配偶者が多くみられた。居住地についてみると、鹿児島県薩摩川内市、埼玉県和光市ともに同一県内、その他といった遠隔地に居住する事例も挙がっていた。緊急時の連絡先は、子ども、本人の兄弟姉妹が多くみられた。

生活意識の状況については、経済的に苦しい事例から、大変ゆとりのある事例まで幅広い事例が収集された。緊急通報システムは、必ずしも全ての事例で利用されていなかった。収集された事例は、普段から人と話をする機会が比較的多く、頼れる人として別居の家族、近所の人をあげた事例が多かった。将来に対する不安は、自分の病気や介護が多く、今後でもできる限り自宅で生活をしたいという事例が多かった。

#### □他者との関わり支援内容・時間

収集された事例では、他者との関わりがある時間は、1 日当たり平均 30 分弱から 13 時間超まで幅広い事例が収集された。その目的は、おしゃべり、おすそ分け、声かけ、様子伺いといった家族等や近隣住民等の見守り等を目的としたものや、新聞配達、宅急便、配食サービス、外出および介護保険サービスであった。

#### □独居生活を継続する上での対応策

グループインタビュー調査の結果から、独居生活を継続する上での対応策として様々な案が指摘された。

テーマ	対応策（案）
買い物・移動支援	移動販売車の利用 送迎付スーパーの普及・活用 通所サービス利用時に買い物等をしたというニーズへの注目 タクシーの活用 低料金、短時間の支援サービスの普及
食への支援	配食サービスの拡充
財産管理	社会福祉協議会の機能拡充



テーマ	対応策（案）
	金融機関のサービス拡大
日ごろの手助け	携帯電話、メールでの意思伝達 民生委員が小額の金銭を預かり必要に応じて日用品等を購入 セルフヘルプグループの拡充(同じニーズのある高齢者を調整し、支援を行う)
見守り・安全管理	自治会機能の強化 モニターカメラ等の利用
相談相手	民生委員の拡充 日ごろから相談相手を確保し、行政等に連絡しておく
その他	孤立傾向にある高齢者を発見するシステムづくり 家族等の教育 日中過ごす場所と寝に帰る自宅の場をつなぐサービスの創設

#### 4.2 調査手法に関する課題

##### □在宅でのケア内容・ケア時間調査手法について

本調査では、留め置き自記式による方法により、在宅要介護高齢者が受けている支援の内容、時間等を調査した。調査対象の選定にあたっては、担当ケアマネジャーが、高齢者本人もしくは家族等に調査協力の意思確認ができることが前提となっていた。また、ケア内容・ケア時間調査の期間に対象事例と接触する可能性のある関係者(家族等、近隣居住者、介護保険事業者、民間事業者等)を把握している事例を選んだことから、本調査の手法が成立したと考えられる。

今後は、サンプリング調査により、在宅要介護高齢者を抽出し、在宅でのケア内容・ケア時間、実施主体について多数のサンプルから調査データを収集し、母集団を想定した、調査データを収集することが求められる。その際には、調査の記載もれできる限り回避し、かつ記入者の負荷の軽減を目指した、調査手法の開発が求められる。具体的には、バーコードとリーダーを活用した、記録媒体を設置する方法等が考えられる。

#### 4.3 今後の検討課題

##### □要支援、自立高齢者に対する調査の必要性

本事例調査では、要介護高齢者を対象に調査を行ったが、要支援さらに自立高齢者についても同様の調査を行い、自宅等で生活継続を実現するための課題、支援方法について検討するための資料収集が必要であると考えられる。

鹿児島県薩摩川内市の事例収集に際して、担当ケアマネジャーのコメントとしてこのような記述があった。独居要介護高齢者が、在宅生活を継続したいと考える積極的な理由として、お墓の管理、ペットの世話、菜園の世話・収穫、地域での集まりに参加したいから等が挙がっていた。反面、消極的な理由として、自己負担に関する経済力の問題、支援拒否状態にあることも挙がっていた。

独居要介護高齢者の、在宅生活条件を検討していく上で、高齢者本人の動機づけ、それを手助けするような仕組みについても必要であると考えられた。また、介護保険サービスの自己負担の問題、支援拒否の意識を持った高齢者に対しては、相談機能、地域の見守り等が一層重要であると考えられる。

## 独居在宅要介護高齢者 生活状況調査票

記入日		平成 23 年 月 日				
居住地域（対象者）						
担当ケアマネジャー		※ご氏名				
		※ご所属				
対象者	ID番号	※ケアマネジャーが、対象者を識別できる番号をご記入ください				
	氏名	※提出時には墨塗り				
	性別・年齢	※平成23年2月時点 男・女 年齢 歳				
	要介護度 (該当番号に○)	1. 要介護1 2. 要介護2 3. 要介護3 4. 要介護4 5. 要介護5 6. その他（申請中等）				
	住居の種類	〔所有形態〕 1. 持ち家 2. 民間賃貸住宅 3. 社宅・公務員住宅等の給与住宅 4. 都市再生機構・公社等の公営賃貸住宅 5. 借間・その他 〔住居の形態〕 1. 一戸建て 2. 共同住宅（マンション・アパート等）				
	家族等の有無／ 居住場所／ 緊急時の連絡先		家族等の有無 (別居等も含む) ※該当する番号 全てに○	居住地域 ※下記番号 参照	緊急時等の 連絡先 ※該当者に○	
		1. 配偶者	1			
		2. 子ども	2			
		3. 本人の父母	3			
		4. 配偶者の父母	4			
		5. 本人の兄弟姉妹	5			
6. 配偶者の兄弟姉妹		6				
7. 孫		7				
8. 子どもの配偶者		8				
9. 甥・姪		9				
10. その他の親族		10				
11. 1から10いずれも いない	11					

〔居住地域〕 1. 同一敷地 2. 近隣地域 3. 同一市区町村 4. 同一県内 5. その他

# 1. 基本調査

1-1 麻痺等の有無について、あてはまる番号すべてに○印をつけてください。(複数回答可)

1. ない    2. 左上肢    3. 右上肢    4. 左下肢    5. 右下肢    6. その他 (四肢の欠損)

1-2 拘縮の有無について、あてはまる番号すべてに○印をつけてください。(複数回答可)

1. ない    2. 肩関節    3. 股関節    4. 膝関節    5. その他 (四肢の欠損)

1-3 寝返りについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. つかまらないでできる    2. 何かにつかまればできる    3. できない

1-4 起き上がりについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. つかまらないでできる    2. 何かにつかまればできる    3. できない

1-5 座位保持について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる    2. 自分の手で支えればできる    3. 支えてもらえばできる    4. できない

1-6 両足での立位保持について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. 支えなしでできる    2. 何か支えがあればできる    3. できない

1-7 歩行について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. つかまらないでできる    2. 何かにつかまればできる    3. できない

1-8 立ち上がりについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. つかまらないでできる    2. 何かにつかまればできる    3. できない

1-9 片足での立位保持について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. 支えなしでできる    2. 何か支えがあればできる    3. できない

1-10 洗身について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. 介助されていない    2. 一部介助    3. 全介助    4. 行っていない

1-11 つめ切りについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. 介助されていない	2. 一部介助	3. 全介助
-------------	---------	--------

1-12 視力について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. 普通（日常生活に支障がない）
2. 約1m離れた視力確認表の図が見える
3. 目の前に置いた視力確認表の図が見える
4. ほとんど見えない
5. 見えているのか判断不能

1-13 聴力について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. 普通（日常生活に支障がない）
2. 普通の声がやっと聞き取れる
3. かなり大きな声なら何とか聞き取れる
4. ほとんど聞えない
5. 聞えているのか判断不能

2-1 移乗について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. 介助されていない	2. 見守り等	3. 一部介助	4. 全介助
-------------	---------	---------	--------

2-2 移動について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. 介助されていない	2. 見守り等	3. 一部介助	4. 全介助
-------------	---------	---------	--------

2-3 えん下について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる	2. 見守り等	3. できない
--------	---------	---------

2-4 食事摂取について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. 介助されていない	2. 見守り等	3. 一部介助	4. 全介助
-------------	---------	---------	--------

2-5 排尿について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. 介助されていない	2. 見守り等	3. 一部介助	4. 全介助
-------------	---------	---------	--------

2-6 排便について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

- |             |         |         |        |
|-------------|---------|---------|--------|
| 1. 介助されていない | 2. 見守り等 | 3. 一部介助 | 4. 全介助 |
|-------------|---------|---------|--------|

2-7 口腔清潔について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

- |             |         |        |
|-------------|---------|--------|
| 1. 介助されていない | 2. 一部介助 | 3. 全介助 |
|-------------|---------|--------|

2-8 洗顔について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

- |             |         |        |
|-------------|---------|--------|
| 1. 介助されていない | 2. 一部介助 | 3. 全介助 |
|-------------|---------|--------|

2-9 整髪について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

- |             |         |        |
|-------------|---------|--------|
| 1. 介助されていない | 2. 一部介助 | 3. 全介助 |
|-------------|---------|--------|

2-10 上衣の着脱について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

- |             |         |         |        |
|-------------|---------|---------|--------|
| 1. 介助されていない | 2. 見守り等 | 3. 一部介助 | 4. 全介助 |
|-------------|---------|---------|--------|

2-11 ズボン等の着脱について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

- |             |         |         |        |
|-------------|---------|---------|--------|
| 1. 介助されていない | 2. 見守り等 | 3. 一部介助 | 4. 全介助 |
|-------------|---------|---------|--------|

2-12 外出頻度について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| 1. 週1回以上 | 2. 月1回以上 | 3. 月1回未満 |
|----------|----------|----------|

3-1 意思の伝達について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

- |                      |
|----------------------|
| 1. 調査対象者が意思を他者に伝達できる |
| 2. ときどき伝達できる         |
| 3. ほとんど伝達できない        |
| 4. できない              |

3-2 毎日の日課を理解することについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

- |        |         |
|--------|---------|
| 1. できる | 2. できない |
|--------|---------|

3-3 生年月日や年齢を言うことについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

- |        |         |
|--------|---------|
| 1. できる | 2. できない |
|--------|---------|

3-4 短期記憶(面接調査の直前に何をしていたか思い出す)について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください

1. できる	2. できない
--------	---------

3-5 自分の名前を言うことについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる	2. できない
--------	---------

3-6 今の季節を理解することについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる	2. できない
--------	---------

3-7 場所の理解(自分がいる場所を答える)について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる	2. できない
--------	---------

3-8 徘徊について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. ない	2. ときどきある	3. ある
-------	-----------	-------

3-9 外出すると戻れないことについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. ない	2. ときどきある	3. ある
-------	-----------	-------

4-1 物を盗られたなどと被害的になることについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. ない	2. ときどきある	3. ある
-------	-----------	-------

4-2 作話をする事について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. ない	2. ときどきある	3. ある
-------	-----------	-------

4-3 泣いたり、笑ったりして感情が不安定になることについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. ない	2. ときどきある	3. ある
-------	-----------	-------

4-4 昼夜の逆転について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. ない	2. ときどきある	3. ある
-------	-----------	-------

4-5 しつこく同じ話をする事について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. ない	2. ときどきある	3. ある
-------	-----------	-------

4-6 大声をだす事について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. ない	2. ときどきある	3. ある
-------	-----------	-------

4-7 介護に抵抗することについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. ない	2. ときどきある	3. ある
-------	-----------	-------

4-8 「家に帰る」等と言い落ち着きがないことについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. ない	2. ときどきある	3. ある
-------	-----------	-------

4-9 一人で外に出たがり目が離せないことについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. ない	2. ときどきある	3. ある
-------	-----------	-------

4-10 いろいろなものを集めたり、無断でもってくる事について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. ない	2. ときどきある	3. ある
-------	-----------	-------

4-11 物を壊したり、衣類を破いたりすることについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. ない	2. ときどきある	3. ある
-------	-----------	-------

4-12 ひどい物忘れについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. ない	2. ときどきある	3. ある
-------	-----------	-------



4-13 意味もなく独り言や独り笑いをすることについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. ない	2. ときどきある	3. ある
-------	-----------	-------

4-14 自分勝手に行動することについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. ない	2. ときどきある	3. ある
-------	-----------	-------

4-15 話がまとまらず、会話にならないことについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. ない	2. ときどきある	3. ある
-------	-----------	-------

5-1 薬の内服について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. 介助されていない	2. 一部介助	3. 全介助
-------------	---------	--------

5-2 金銭の管理について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. 介助されていない	2. 一部介助	3. 全介助
-------------	---------	--------

5-3 日常の意思決定について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. できる(特別な場合でもできる)	2. 特別な場合を除いてできる	3. 日常的に困難	4. できない
--------------------	-----------------	-----------	---------

5-4 集団への不適應について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. ない	2. ときどきある	3. ある
-------	-----------	-------

5-5 買い物について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. 介助されていない	2. 見守り等	3. 一部介助	4. 全介助
-------------	---------	---------	--------

5-6 単純な調理について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

1. 介助されていない	2. 見守り等	3. 一部介助	4. 全介助
-------------	---------	---------	--------

## 2. 日常生活自立度

□各々該当するもの1つに○印をつけてください。

障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）	自立・J 1・J 2・A 1・A 2・B 1・B 2・C 1・C 2
認知症高齢者の日常生活自立度	自立・I・II a・II b・III a・III b・IV・M

## 3. 特記事項

### 1 身体機能・起居動作に関連する項目についての特記事項

1-1 麻痺等の有無、1-2 拘縮の有無、1-3 寝返り、1-4 起き上がり、1-5 座位保持、1-6 両足での立位、1-7 歩行、1-8 立ち上がり、1-9 片足での立位、1-10 洗身、1-11 つめ切り、1-12、視力、1-13 聴力

( )  
.....  
( )  
.....  
( )  
.....  
( )  
.....

### 2 生活機能に関連する項目についての特記事項

2-1 移乗、2-2 移動、2-3 えん下、2-4 食事摂取、2-5 排尿、2-6 排便、2-7 口腔清潔、2-8 洗顔、2-9 整髪、2-10 上衣の着脱、2-11 ズボン等の着脱、2-12、外出頻度

( )  
.....  
( )  
.....  
( )  
.....  
( )  
.....

### 3 認知機能に関連する項目についての特記事項

3-1 意思の伝達、3-2 毎日の日課を理解、3-3 生年月日を言う、3-4 短期記憶、3-5 自分の名前を言う、3-6 今の季節を理解、3-7 場所の理解、3-8 徘徊、3-9 外出して戻れない

( )  
.....  
( )  
.....  
( )  
.....  
( )  
.....

**4 精神・行動障害に関連する項目についての特記事項**

4-1 被害的、4-2 作話、4-3 感情が不安定、4-4 昼夜逆転、4-5 同じ話をする、4-6 大声を出す、4-7 介護に抵抗、4-8 落ち着きなし、4-9 一人で出たがる、4-10 収集癖、4-11 物や衣類を壊す、4-12 ひどい物忘れ、4-13 独り言・独り笑い、4-14 自分勝手に行動する、4-15 話がまとまらない

( )  
.....  
( )  
.....  
( )  
.....  
( )  
.....

**5 生活機能に関連する項目についての特記事項**

5-1 薬の内服、5-2 金銭の管理、5-3 日常の意思決定、5-4 集団への不適応、5-5 買い物、5-6 簡単な調理

( )  
.....  
( )  
.....  
( )  
.....  
( )  
.....

**6 生活機能に関連する項目についての特記事項**

6 特別な医療

( )  
.....  
( )  
.....  
( )  
.....  
( )  
.....

**7 生活機能に関連する項目についての特記事項**

7-1 障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)、7-2 認知症高齢者の日常生活自立度

( )  
.....  
( )  
.....  
( )  
.....  
( )  
.....

## 4. 医療ニーズ

### 1 医療・ケアの必要性（あてはまるもの全てに○）

1 気管切開を受けた状態	6 自己導尿の管理を要する状態	11 疼痛管理を要する状態
2 酸素療法を要する状態	7 パルカテ-ル留置の管理を要する状態	12 リハビリ-ションを要する状態
3 経管栄養（胃瘻・腸瘻・経鼻栄養）による栄養管理を要する状態	8 喀痰吸引を要する状態	13 摂食嚥下障害がみられる状態
4 末梢輸液を要する状態	9 創傷のケアを要する状態	14 服薬管理を要する状態
5 人工肛門による排泄管理を要する状態	10 インスリン投与を要する状態	15 その他（ ）

### 2 医療機関の受診状況（それぞれの受診、利用状況について、あてはまるものに○）

病 院	1. 通院している	2. 往診・訪問診療を受けている	3. 1,2ともなし
一般診療所	1. 通院している	2. 往診・訪問診療を受けている	3. 1,2ともなし
歯科診療所	1. 通院している	2. 往診・訪問診療を受けている	3. 1,2ともなし
あんま・はり・きゅう・柔道整復	1. 通っている	2. 通っていない	
訪問看護（医療保険）	1. 受けている	2. 受けていない	

## 5. CDR (Clinical Dementia Rating)

※該当箇所には○をつけてください。判断に迷う場合には重い方を選択してください。

CDR	0	0.5	1	2	3
	障 害				
	なし 0	疑い 0.5	軽度 1	中等度 2	重度 3
記憶 (M)	記憶障害なし 軽度の一貫しない 物忘れ	一貫した軽い物忘れ 出来事を部分的に 思い出す良性健忘	中程度記憶障害 特に最近の出来事 に対するもの 日常生活に支障	重度記憶障害 高度に学習したもの のみ保持、新しいもの はすぐに忘れる	重度記憶障害 断片的記憶のみ残 存する程度
	○	○	○	○	○
見当識 (O)	見当識障害なし	時間的関連の軽度 の困難さ以外は障 害なし	時間的関連の障害 中程度あり、検査 では場所の見当識 良好、他の場所で 時に地誌的失見当	時間的関連の障害 重度、通常時間の 失見当、しばしば場 所の失見当	人物への見当識の み
	○	○	○	○	○
判断力と 問題解決 (JPS)	日常の問題を解決 仕事をこなす 金銭管理良好 過去の行動と関連 した良好な判断	問題解決、類似性・ 差異の指摘におけ る軽度障害	問題解決、類似 性・差異の指摘に おける中程度障害	問題解決、類似性・ 差異の指摘におけ る重度障害	問題解決不能
			社会的判断は通常、 保持される	社会的判断は通常、 障害される	判断不能
	○	○	○	○	○
地域社会 活動 (CA)	通常の仕事、買 物、ボランティア、 社会的グループで 通常の自立した機 能	左記の活動の軽度 の障害	左記の活動のいく つかにかかわって いても、自立できな い 一見正常	家庭外では自立不可能	
				家族のいる家の外に連 れ出しても他人の目 には一見活動可能に 見える	家族のいる家 の外に連れ出した 場合生活不可能
	○	○	○	○	○
家庭生活 および 趣味・関心 (HH)	家での生活、趣味、 知的関心が十分保 持されている	家での生活、趣味、 知的関心が軽度障 害されている	軽度しかし確実な 家庭生活の障害 複雑な家事の障 害、複雑な趣味や 関心の喪失	単純な家事手伝いの み可能 限定された関心	家庭内における 意味のある生 活活動困難
	○	○	○	○	○
介護状況 (PC)	セルフケア完全		奨励が必要	着衣、衛生管理など身 の回りのことに介助が必 要	日常生活に十分 な介護を要する 頻回な失禁
	○	○	○	○	○

□認知機能・BPSD 等についてそれぞれ該当するもの一つに○をつけてください。

	あてはまる	すこし 傾向がある	あてはまらない
a. 会話中に「あれ」「それ」などの代名詞をよく使う	01	02	03
b. 夕方になると時間や場所が分からなくなり、変なことを言	01	02	03
c. 意欲がなく、新しいことへの興味が無い	01	02	03
d. ごく簡単なことでも理解できない	01	02	03
e. 発想が乏しい	01	02	03
f. 身だしなみを気にしない	01	02	03
g. 動作がのろくなってきている	01	02	03
h. 食べ物でもないものを食べようとする	01	02	03
i. ちょっとしたことでもイライラする	01	02	03
j. 過去に意識を失うほど、頭を強く打ったことがある	01	02	03
k. 重ね着をしたり、着衣の順を誤ったりする	01	02	03
l. 不潔、清潔の区分がつかず、わざと汚したりする	01	02	03
m. やさしい計算でも間違える	01	02	03
n. 今日が何日か、何曜日かが正確に言えない	01	02	03
o. 食事したことを忘れ、何度も食事を要求する	01	02	03
p. 時々、死にたいと言う	01	02	03
q. 新しい歌やゲームが覚えられない	01	02	03
r. よく知った人の顔を見ても分からない、又は誤る	01	02	03
s. 忍耐力がなく、集中力が低下している	01	02	03
t. 自発性に乏しく、他人に頼りがちである	01	02	03
u. 「声が聞こえる」「虫が見える」などの幻覚がある	01	02	03

## 6. 生活状況に関する項目

1 生活意識の状況（現在の暮らしの状況を総合的にみてどのように感じていますか）。

1. 大変苦しい 2. やや苦しい 3. 普通 4. ややゆとりがある 5. 大変ゆとりがある

2 もっとも近い商店・郵便局・銀行・駅までの所要時間

	手段(あてまるもの1つに○)	所要時間
商 店	1. 徒歩 2. バス・車 3. 電車 4. その他 ( )	約 分
郵 便 局	1. 徒歩 2. バス・車 3. 電車 4. その他 ( )	約 分
銀 行	1. 徒歩 2. バス・車 3. 電車 4. その他 ( )	約 分
最 寄 駅	1. 徒歩 2. バス・車 3. 電車 4. その他 ( )	約 分

3 緊急通報システムを利用していますか。

1. 利用している 2. 利用していない 3. その他 ( )

4 友人との付き合い（会ったり、手紙や電話のやりとりをしている）。

1. していない 2. あまりしない 3. ときどきする 4. している

5 ふだんの程度、人（家族等も含む）と話をするか（電話やEメールも含めて回答）。

1. 毎日 2. 2日～3日に1回 3. 1週間に1回 4. 1週間に1回以下・ほとんど話をしない

6 病気のと看や、一人ではできない家の周りの仕事の手伝いなどについて頼れる人はいるか（あてはまるもの全てに○）。

1. 別居の家族 2. 友人 3. 近所の人 4. その他 ( ) 5. いない

7 将来に対する不安事項（あてはまるもの全てに○）。

1. 家族との人間関係 2. 家族以外の人間関係 3. 生きがいに関すること  
4. 収入・家計・借金等 5. 自分の病気や介護 6. 家族の病気や介護  
7. その他 ( )  
8. わからない

8 今後の希望する生活場所（あてはまるもの1つに○）。

1. できる限り自宅で生活したい 2. 家族・親戚等の家に同居したい 3. 病院に入院したい  
4. 介護保険施設等に入所したい 5. その他 ( )  
6. わからない

\_\_\_\_\_さん宅にいらした方へ(お願い)

□現在、薩摩川内市では、厚生労働省・財団法人日本公衆衛生協会からの依頼を受けて、お一人ぐらしの高齢者の生活状況を調査しています。

□2月 日から 日までの、3日間に、\_\_\_\_\_さん宅を訪問された全ての方に、以下の記入を  
お願いしています。

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>●何時から何時に</li><li>●誰が</li><li>●どんな用事で訪ねてきたか<br/>(例) おすそ分け、おしゃべり(声かけ)、買物のてっだい、<br/>介護保険サービス(種類も記入ください) 等</li></ul> |
|--|

※ご家族、親戚、近隣にお住まいの方、および介護保険事業者等全ての方が対象となります。

※ご記入のほどお願い申し上げます。



# 独居在宅高齢者ケア時間およびケア内容調査票

調査対象地域： \_\_\_\_\_  
 対象者ID： \_\_\_\_\_

2 月 \_\_\_\_ 日

来た時刻：1 帰った時刻：2	時刻 (何時から何時まで) 時 分	訪問された目的 (どんな用事できたか)	の来 人訪 人数	来られた方 (誰が来たのか)
	<b>記入(例)</b>			
1	7 30	ホームヘルプ(着替え、整容、食事の準備、食事介助、後片付け、トイレ移動支援、コミュニケーション)	1人	介護保険事業者
2	8 30			
1	12 00	お昼ご飯のおかずのおすそ分け、おしゃべり	1人	山本〇〇(近隣居住者)
2	12 15			

